

フジフィルム スクエア

2025年度

活動報告書



2026

**FUJIFILM SQUARE**

## フジフィルム スクエアのこれまでの活動

開館以来、1,882本の写真展を開催し、累計で約900万人の方々にご来館いただいています\*1。

※1 2026年3月時点



富士フィルムは創業以来「写真文化」を守り育てるため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、そして写真を残す大切さを伝える活動を一貫して行ってきました。

### 1957 富士フォトサロン開館

プロ、アマチュアを問わず優れた作品を発表する場として、フジフィルム スクエアの前身となる富士フォトサロンを銀座に開館しました。

### 2007 フジフィルム スクエア開館

東京ミッドタウン(六本木)への本社移転と同時に、複合型ショールーム「フジフィルム スクエア」を開館しました。「富士フォトサロン」から改名した「富士フィルムフォトサロン」に加え、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」などを併設。



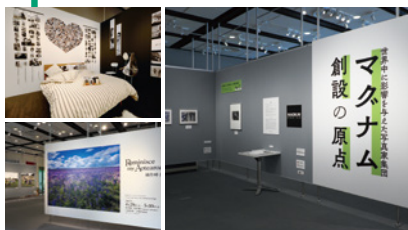
### 2014 フジフィルム・フォトコレクション収蔵

富士フィルムグループの創立80周年を機に、幕末・明治から現代に至る日本の写真史を飾る101人の写真家選りすぐりの一枚を、「フジフィルム・フォトコレクション」として収蔵。これらはフジフィルム スクエアをはじめ全国の美術館でも展示され、その芸術的価値をお伝えするとともに、日本写真史の体系的な理解に役立てていただいています。

### 2017 開館10周年記念写真展の開催

フジフィルム スクエアの開館10周年を記念し、写真の「歴史」・「今」・「明日」という3つのテーマで、「写真の過去・現在・未来」を発信する12の特別企画展を1年間にわたり開催しました。

10<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY



### 2018 メセナアワード2018 優秀賞「瞬間の芸術賞」受賞

フジフィルム スクエアの活動が、企業メセナ協議会\*2が主催するメセナアワード2018 優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞。長年にわたり、写真作品を発表、鑑賞する場を提供し、人と人の心がつながる感動体験を広め、写真文化の普及と発展に貢献していること、時代を超える価値を持つ貴重な作品の展示機会を作り、記録性や芸術性という写真の本質を、時代に合った内容で発信し、写真を文化財として継承・育成する可能性を追求し続けていることを評価いただきました。

※2 企業による芸術文化支援(メセナ)活動の活性化を目的に1990年に設立された、日本で唯一のメセナ専門の中間支援機関

### 2024 フジフィルム・フォトコレクションII 収蔵

富士フィルムグループが創立90周年を迎えた2024年、「人を撮る」をテーマに20世紀の世界写真史に名を連ねる写真家20名によって撮影された53点の歴史的価値の高い作品を「フジフィルム・フォトコレクションII」として収蔵。2024年4月26日(金)～5月16日(木)フジフィルム スクエアにて初披露しました。今後、時代を超える価値を持つこれらの作品群を「フジフィルム・フォトコレクションII」として大切に保存するとともに、国内外で展示・公開していきます。

90<sup>th</sup>  
そして  
その先の  
未来へ  
100



「こころ彩るところ」フジフィルム スクエアは、  
時代の変化に適した形で、写真文化を未来へと絶えず、守り育み続けます。



富士フィルムフォトサロン、写真歴史博物館、フジフィルム・フォトコレクション、若手写真家応援プロジェクトは、2026年、公益社団法人企業メセナ協議会より、「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2026」の認定を受けております。

2025

## フジフィルム スクエアの活動が 「メセナアワード2025」優秀賞 一写真文化の継承と若手写真家の育成— を受賞いたしました

富士フィルム株式会社は、公益社団法人企業メセナ協議会が主催する「メセナアワード2025」において、フジフィルム スクエアの活動を評価いただき、優秀賞を受賞いたしました。「メセナアワード2025」は企業によるメセナ（芸術文化振興による心豊かなより良い社会づくり）活動を対象に、優れた活動を表彰することで、メセナの充実と社会からの関心を高めることを目的に創設された顕彰事業です。

今回の受賞は、優れた写真作品の展示を通じて写真文化を守り育て、写真の持つ力を発信する場として富士フィルムが運営する「フジフィルム スクエア」の活動が、以下の観点で評価されたものです。

- ①写真の歴史や文化の継承に取り組むとともに、写真の持つ価値を幅広い層へ発信し続けている
- ②若手写真家の育成支援を通して、写真の新たな可能性を探求し、写真文化の発展につなげている



### 「メセナアワード2025」において評価された活動

#### 1. 富士フィルムフォトサロン

歴史的価値のある作品から新進気鋭の若手写真家の作品まで、幅広い写真作品を展示する「富士フィルムフォトサロン」を運営。子ども向けの夏休み企画や絵本の世界を特大プリントで再現する企画、写真作品と共に音や香りを用いて没入感を味わえる体験型の企画など、さまざまな写真展を開催し、幅広い層に写真の楽しみ方を提案しています。

#### 3. 若手写真家応援プロジェクト「ポートフォリオレビュー/アワード」

国内外で活躍する著名な写真家を審査員に迎え、若手写真家から募集した作品を講評し、受賞者を選定。受賞者は著名な写真家による写真展示に関する専門的なアドバイスを受けながら、写真展を開催することができます。フジフィルム スクエアは本プロジェクトを通じて、新しい感性を持つ写真家の支援に取り組んでいます。

#### 2. 写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや、当社の歴代カメラの展示に加え、歴史的価値のある写真を展示する企画展も開催。写真関連商品の研究・開発・技術サポートに長年携わった元社員がコンシェルジュとして写真とカメラの歴史を解説するツアーは、修学旅行や地域のイベントにも組み込まれるなど、若い世代の写真文化への興味を喚起しています。

#### 4. フジフィルム・フォトコレクションII

2024年の富士フィルムグループ創立90年を記念して、20世紀の世界の写真史に名を連ねる著名な海外写真家のオリジナルプリント作品を「フジフィルム・フォトコレクションII」として収集し展示。「人を撮る」をテーマに収集された本コレクション展は好評を博し、期間中の来場者は約38,000人と注目度の高い写真展となりました。

## ご挨拶

フジフィルム スクエアは、富士フィルム株式会社 東京ミッドタウン（東京都港区）本社にある複合型のショールームです。優れた写真作品の展示を通じ、写真文化を守り育て、写真の持つ力を発信する場として、2007年にオープンいたしました。

さまざまなジャンルの写真を展示する写真ギャラリー「富士フィルムフォトサロン東京」、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」、最新の写真関連商品を試せる「タッチフジフィルム&イメージングサービスカウンター」、化粧品・サプリメントなどの当社ヘルスケア商品を取りそろえた直営店「ASTALIFT ROPPONGI」で構成されています。

開館以来、2025年度までに、1,882本の写真展を開催し、累計で約900万人の方にご来館いただいております。

そして2025年度は、現代を代表する著名な写真家たちの作品の展示、当社の歴代カメラの実機やフィルムの展示を通して写真の歴史を今に伝える活動、新しい写真表現に意欲的に取り組む若手写真家の活動サポートなど、フジフィルム スクエアがこれまで続けてきた活動が「メセナアワード2025」※1優秀賞を受賞し、あらためて評価された年となりました。

2025年度の活動として、富士フィルムフォトサロンでは、日本の伝統文化を丹念に撮影した写真、ヒマラヤの雄大な自然を写した写真、野生動物とその生息する自然環境に焦点を当てた写真などの大企画展をはじめとした、バラエティーに富んだ写真展を開催。写真歴史博物館では、幕末・明治から現代に至る日本の写真史を飾る101名の写真家の選りすぐりの一枚を収集した「フジフィルム・フォトコレクション」をはじめとした当社収蔵写真家や作品による歴史的価値の高い写真展を開催するなど、独自性ある展示を行いました。

また、本年も若手写真家に写真展示の専門的な知識や作品の発表の場を提供する富士フィルムフォトサロン若手写真家応援プロジェクトの「写真家たちの新しい物語※2」と「ポートフォリオレビュー※3／アワード」を開催。独自の視点で写真表現の新たな可能性を追求する、豊かな感性が光る8名の写真家たちによる展示は、幅広い世代の共感を引き起こす写真の力の発信につながりました。

フジフィルム スクエアは、「地球上の笑顔の回数を増やしていく。」という富士フィルムグループパーパスの下、これからも祖業である写真を通じて、その素晴らしさや楽しさ、感動の瞬間や大切な思い出を形に残すことの大切さを伝え、写真文化の継承と発展、心豊かな社会の実現に貢献していきます。

※1「メセナアワード2025」は企業によるメセナ（芸術文化振興による心豊かなより良い社会づくり）活動を対象に、優れた活動を表彰することで、メセナの充実と社会からの関心を高めることを目的に公益社団法人企業メセナ協議会により創設された顕彰事業です。

※2フジフィルム スクエアは2013年に、若手写真家が写真展を開催するための制作費などを支援する「写真家たちの新しい物語」を若手写真家応援プロジェクトの一つとして立ち上げ、2025年度までに計50本の展示をしています。

※3ポートフォリオレビュー：作品講評会。

## 施設コンセプト



「写真の持つ力に感動しました」「思わず私も撮りたくなりました」  
訪れたお客さまから、そんなたくさんのお声をいただいております。

見応えあるオリジナルプリントを、思う存分鑑賞する。  
出展者の、作品作りの背景や意図を理解する。  
写真家の心に共感し、一緒に見ている人と気持ちを分かち合う。  
歴代のカメラや写真の歴史を知り、好奇心の羽根を広げる。

“と 彩 ろ”。

フジフィルム スクエアはこれからも、価値ある作品との出会いを通じて、  
人と人が心豊かにつながる場でありたいと考えています。

# CONTENTS

## 企画写真展レポート

### FUJIFILM SQUARE 企画写真展

|    |                                                                                                 |        |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 01 | 榎並悦子写真展「越中八尾 おわら風の盆」                                                                            | ・・・ 06 |
| 02 | 希望 (HOPE) ～みんなで考える動物の未来～                                                                        | ・・・ 08 |
| 03 | 石川直樹写真展「ASCENT OF 14 2001-2024」<br>～8,000メートル峰 14座への旅～                                          | ・・・ 10 |
| 04 | 岡田敦写真展「ユルリ島の馬<br>～The Horses of Yururi Island～」                                                 | ・・・ 12 |
| 05 | 水谷章人写真展 photographer 60 years<br>「イマージュ・ド・スポール “夢”」                                             | ・・・ 13 |
| 06 | SHOCK EYE写真展「和景讃歌」<br>The Power of Japanese Scenery                                             | ・・・ 14 |
| 07 | 大橋和典写真展「那覇市・農産市場（のうれんいちば）の記憶」<br>ー 消えゆく市場と暮らしの息遣いの記録 ー                                          | ・・・ 15 |
| 08 | 19世紀、世界初の写真集<br>フォックス・タルボット『自然の鉛筆』                                                              | ・・・ 15 |
| 09 | 幕末明治を写した記録写真<br>Photographs of the Late Edo / Early Meiji Period<br>～フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 収蔵品より～ | ・・・ 15 |

### 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】

|    |                                              |        |
|----|----------------------------------------------|--------|
| 10 | 大谷圭写真展「Breathing Tibet」<br>ー 息づく人々、息づく大地 ー   | ・・・ 16 |
| 11 | カジリョウスケ報道写真展「憧憬」                             | ・・・ 17 |
| 12 | 高橋海斗写真展「Ever-Flowing Life」<br>知床 ーめぐりゆく時の中でー | ・・・ 18 |
| 13 | 松田康司写真展「命めぐる海の物語」                            | ・・・ 19 |

### 富士フィルムビジネスイノベーション 企画写真展

|    |                                                                              |        |
|----|------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 14 | 時静-JISE- 花人 赤井勝のせかい Bloom Infinity-<br>The Artistry of Masaru Akai by MeSEUM | ・・・ 20 |
|----|------------------------------------------------------------------------------|--------|

### 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【ポートフォリオレビュー／アワード 2025】

|    |                       |        |
|----|-----------------------|--------|
| 15 | ポートフォリオレビュー／アワード 2025 | ・・・ 21 |
|----|-----------------------|--------|

### 富士フィルム 企画写真展

|    |                                                                                              |        |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 16 | GFX Challenge Grant Program 2024<br>～Make Your Next Great Image～                             | ・・・ 24 |
| 17 | ～ Piccola felicità (ピッコラ フェリチタ) 小さな幸せ ～<br>企画：水谷 豊 × 撮影：会田 正裕<br>FUJIFILM GFX100 II コラボレーション | ・・・ 26 |
| 18 | 故 萩原史郎トリビュート「淡きひかりのありか」                                                                      | ・・・ 27 |

### 当社共催写真展

|    |                                                                                        |        |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 19 | 第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) 開催記念写真展<br>「Together for Africa: Ending TB, Bringing More Smiles」 | ・・・ 27 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|--------|

### 富士フィルム 企画写真展

|    |                                                                  |        |
|----|------------------------------------------------------------------|--------|
| 20 | VR PHOTO COMPETITION 2025<br>入賞作品展                               | ・・・ 28 |
| 21 | Mikael Cronwall写真展<br>「The Swedish Monument/The Godzilla Series」 | ・・・ 29 |
| 22 | 「写真展プリントの上手な作り方」                                                 | ・・・ 29 |
| 23 | 「大切な写真をカタチにする喜び」                                                 | ・・・ 30 |
| 24 | 「第63回 富士フィルムフォトコンテスト」入賞作品発表展                                     | ・・・ 30 |
| 25 | “PHOTO IS” 想いをつなぐ。あなたが主役の写真展2025                                 | ・・・ 31 |
| 26 | 「第21回美しい風景写真100人展」 「風景写真Xtension展」                               | ・・・ 31 |
| 27 | 富士フィルム海老名Minerva AFC 写真展                                         | ・・・ 31 |
| 28 | 日本社会人アメリカンフットボール Xリーグ<br>「X1 Super 2025 秋季リーグ戦 開幕記念写真展」          | ・・・ 31 |

### FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

|    |                                                    |        |
|----|----------------------------------------------------|--------|
| 29 | 土田ヒロミ写真展「俗神」                                       | ・・・ 32 |
| 30 | 深瀬昌久写真展「洋子／遊戯」                                     | ・・・ 33 |
| 31 | 動画の原点「アニマル・ロコモーション」<br>「連続写真に取り憑かれた男 エドワード・マイブリッジ」 | ・・・ 34 |
| 32 | 鬼海弘雄写真展「PERSONAー坂東玉三郎」                             | ・・・ 35 |

## 写真展開催リスト

当社が主催・協力する企画展38本（若手写真家応援プロジェクト4本、写真歴史博物館の企画写真展4本含む）、公募展44本、合計82本

## 施設概要レポート

榎並悦子写真展「越中八尾 おわら風の盆」

2025年6月13日(金)ー7月3日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー



展示概要

飛騨高山から富山への街道筋の宿場町として栄えた八尾(現・富山市八尾町)で、江戸時代から三百年以上受け継がれてきた「おわら風の盆」。立春から二百十日にあたる「台風の日」に風害を鎮め豊穡を祈る風鎮祭として9月1日から3日まで開催されます。三味線、胡弓、太鼓のお囃子にのせて唄い上げられる民謡「おわら節」に合わせ、編み笠を目深にかぶった男女が数千のぼんぼりが灯る坂の町を踊り流します。その優美な踊りと哀調を帯びた旋律は、多くの人々を魅了し続けてきました。

「一期一会」の出会いを大切に、しなやかな視線でさまざまな対象を捉えた作品を発表している榎並悦子氏が、初めて「おわら風の盆」を訪れたのは1996年。仕事での撮影がきっかけでした。優美な踊りとおわら節の響きに満ちた独特の空間に魅せられ、以来、毎年のように八尾に足を運び、地元の人々と交流を深めながら、踊りや町の風景、人々の表情などを二十年以上にわたり写真に収め続けてきました。

本展では、そのライフワークの集大成としてカラー作品95点を披露。憩意であった書家中島光晴氏の書を添えた榎並氏による解説文をはじめ、胡弓の名手伯育男氏の胡弓と弓、風の盆を描いた画家林秋路氏の肉筆掛け軸、シンガーソングライターのさだまさし氏から寄せられたコメントも展示しました。さらに、富山県民謡越中八尾おわら保存会、越中八尾観光協会の協力の下、風情ある「おわら」の調べをBGMとするなど、来館者にその世界観を体感していただく場としました。

また本展開催に合わせて、展示作品を収録した榎並悦子写真集『越中八尾 おわら風の盆』(クレヴィス)が刊行され、会場にて展示販売を行いました。



展示作品点数

95点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
協力：一般社団法人 富山県民謡越中八尾おわら保存会、一般社団法人 越中八尾観光協会  
後援：富山市、港区教育委員会  
企画／デザイン：株式会社クレヴィス  
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント

- スペシャルイベント「逢いにゆきたや、おわら風の盆」  
①スライド上映 ②おわら踊りと胡弓(胡弓演奏：山田誠<越中八尾おわら保存会諏訪町支部>、三味線演奏：北坂弘俊<友情出演>) ③おわら談議(長尾洋子<和光大学表現学部教授>、楠純太<越中八尾観光協会>、榎並悦子)  
2025年6月28日(土) 15:00～16:30
- 榎並悦子氏によるギャラリートーク 2025年6月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)・7月1日(火)・2日(水) ※各日14:00～14:30

夜の路地の雰囲気を再現し「おわら風の盆」に没入できる空間を実現

会場の一角には、黒壁に囲まれ照明を落とした空間を設けました。行燈が道案内のように連なり、耳を澄ませばおわら節の唱と囃子、虫の音が響き合う――。これは、夜の八尾の細い路地を踊り手たちが練り歩く、「おわら風の盆」の幻想的で静謐な雰囲気を再現したものです。本展では、企画段階から綿密に打ち合わせを重ね、榎並氏のアイデアを生かしながら、作品と向き合うための「没入感」のある空間を創り上げました。

展示は「踊・響・影・坂・灯・雨」などのテーマごとに構成。榎並氏の思いを込めた解説文や、おわら節の歌詞短冊を添えました。全ての所作に意味が宿る踊りの瞬間瞬間を克明に捉えた写真や、子どもたちを含む踊り手たちが出番を待つ緊張と高揚の表情、唄い手や楽器奏者など「地方」による演奏風景、夕方から深夜へと移ろう幻想的な町並みの写真などが、来館者を「おわら風の盆」の世界にいざないました。

展示ケースには、風の盆を描いた絵葉書、酒器など、ゆかりの品々も展示。長い伝統が息づくこの行事をより深く理解していただけるようにしました。



《来館者の声》

写真からその場(祭り)の風の匂いがしてきそうでした。静謐な美しさと、躍動感を楽しませていただきました。

長年丁寧に取材を重ねてこられたことが感じられる圧巻の写真展でした。特に会場の造形が素晴らしく、まるで祭りに参加しているようでした。

憧れていたおわら風の盆の風景を情緒たっぷりに見せていただき、幸せでした。

日本に住むスペイン人です。美しい写真を鑑賞することができ、八尾を訪れて自分でも祭りを体験したいと思いました。



八尾から胡弓・三味線の奏者や踊り手を迎え、本番さながらの実演を披露

3週間の会期中、全6回のギャラリートークを開催。八尾の歴史や風の盆の由来、撮影の秘話までを語る榎並氏の話に、毎回多くの来館者が耳を傾けました。

当館2階特設会場でのスペシャルイベント「逢いにゆきたや、おわら風の盆」には、300人以上が参加。スライド上映やゲストとの「おわら談義」に続き、八尾から迎えた胡弓・三味線奏者、踊り手が登場しました。生演奏が響く中、町流しさながらに、観客の間を縫うように踊り進むその姿に、会場は大きな拍手に包まれました。

展示会場には、踊り手の写真を背景に、来館者が編み笠をかぶって撮影できるフォトスポットも設置。来館者が入れ代わり立ち代わり記念撮影を楽しみました。本展は、海外からのお客さまや幅広い年代の来館者に「おわら風の盆」の魅力を堪能いただける写真展となりました。

涙を流している女の子は上手に踊れなかったのだろうか、足が痛くなったのだろうか？ そんなふうに、人の心がうかがえる作品ばかりでした。

昔から続く伝統文化の美しさが目に飛び込んできました。会場では虫の音も聞こえ、本当に祭りの通りを歩いているかのようでした。

とても美しい写真ばかり。祭りの夜の暗がりの演出も素晴らしく、2日続けて見に来ました。

作品はもちろん、ストーリー、コンセプトまで素晴らしかったです。

希望 (HOPE) ～みんなで考える動物の未来～

2025年7月25日(金)～8月14日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・3・ミニギャラリー

9人の写真家による

希望

みんなで考える動物の未来



7.25-8.14

10:00-19:00

FUJIFILM SQUARE

写真家：一関さやか、大島淳之、大竹英洋、香川美穂、柏倉陽介、篠田岬輝、中村恵美、山口大志、山田耕熙

主催：富士フィルム株式会社

後援：港区教育委員会、世田谷区教育委員会、大阪市教育委員会

監修：一般財団法人 自然環境研究センター

企画：株式会社クレヴィス、写真家 篠田岬輝

デザイン：株式会社クレヴィス

プリント制作：プロラボ クリエイト

| 出展写真家                                         | クレジット                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一関さやか、大島淳之、大竹英洋、香川美穂、柏倉陽介、篠田岬輝、中村恵美、山口大志、山田耕熙 | 主催：富士フィルム株式会社<br>後援：港区教育委員会、世田谷区教育委員会、大阪市教育委員会<br>監修：一般財団法人 自然環境研究センター<br>企画：株式会社クレヴィス、写真家 篠田岬輝<br>デザイン：株式会社クレヴィス<br>プリント制作：プロラボ クリエイト |
| 展示作品点数                                        | 100点                                                                                                                                   |

- 併催イベント
- 写真家ギャラリートーク  
2025年7月26日(土) ①大竹英洋 14:00～14:30、②一関さやか 14:30～15:00、③篠田岬輝 16:00～16:30、④柏倉陽介 16:30～17:00、⑤大島淳之 17:00～17:30  
7月27日(日) ⑥山口大志 14:00～14:30、⑦山田耕熙 14:30～15:00、⑧中村恵美 16:00～16:30、⑨香川美穂 16:30～17:00
  - 写真家トークセッション「みんなで考える動物の未来」  
講師：一関さやか、大島淳之、香川美穂、柏倉陽介、篠田岬輝、中村恵美、山口大志、山田耕熙、大竹英洋(動画出演)／2025年8月9日(土) 14:00～15:30
  - 自然環境トークディスカッション「世界の生物多様性保全の現状と未来」  
講師：柏倉陽介(写真家)、戸田光彦(一般財団法人 自然環境研究センター 研究主幹)、矢野摂士(株式会社日本経済新聞社 サイエンスグループ記者)、伊藤啓二(環境保護事業 angleReserve株式会社 代表取締役社長)、篠田岬輝(写真家／司会)／2025年8月11日(月・祝) 14:00～15:30
  - 来館記念プレゼント「みんなで考える動物の未来クイズ」  
展示期間中、会場にてクイズ用紙に全問回答をしてくださった方に、本展特製ポストカードをプレゼント

展示概要

フジフィルム スクエアでは、毎年夏休みの時期に、小・中学生の自由研究を応援する企画を実施しています。2025年は、世界各地で活動する写真家9名が撮影した、動物たちと自然環境の写真100点を集めた写真展を開催しました。

各地で野生動物を撮影する写真家たちは、現在の自然環境が動物たちにとって危機的状況にあることを、身をもって感じてきました。その一方で、動物たちやその生息環境をさまざまな手段で守ろうとする人々の努力によって、生息数の拡大や自然環境の回復などの成果が挙げられていることも目撃しています。本展では、そうした環境問題に関心の高い動物・自然写真家たちが活動してきた9つの地域と、そこに生息する動物たちにフォーカス。動物たちが暮らすかけがえのない瞬間を切り取った写真を通じて、強い生命力や豊かな感情を持つ動物たちの魅力的な姿を伝えました。併せて、各地域の野生動物が生きる環境の問題を伝えるメッセージや解説パネルを展示。写真が伝える動物たちの命の尊さと、私たち人間とのつながりを意識してもらえるような構成としました。

本展の趣旨は、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」に掲げられた取り組みに通じるものです。会期中は、生物多様性保全について、写真家たちが一堂に会して語り合うセッションや自然環境の専門家を招いてのトークディスカッションも開催。厳しい環境下でも懸命に生きる動物たちの見応えのある写真作品群と、解説展示やイベントで、鑑賞者一人ひとりが自分に何ができるのかをポジティブに考え、実行するきっかけとなる未来へのメッセージを受け取ってほしい——「希望 (HOPE)」というタイトルには、そのような願いを込めました。



| 販売物                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・大竹英洋『ノースウッズ 生命を与える大地』(クレヴィス)／『もりのどうぶつ』『もりはみている』(福音館書店)<br>・香川美穂『PENGUIN LIFE ペンギンおやこのとき』(青幻舎)<br>・柏倉陽介『Back to the Wild 森を失ったオランウータン』(エイアンドエフ)<br>・篠田岬輝『サバンナに生きる!ライオン家族の物語』(玄光社)<br>・中村恵美『PANDA』(自費出版)／『RING OF LIFE』(リーブル出版)<br>・山口大志『AMAZON 密林の時間』(クレヴィス)<br>・山田耕熙Special 12 Photo-Folio『The Land of Tigers (Box入り)』(自費出版) |
| 主要メディア掲載                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 新聞：毎日小学生新聞(7月15日)、東京新聞(7月16日、8月5日)、日経サイエンス(7月25日)／写真・カメラ紙(誌)：隔月刊『風景写真』(6月19日)、デジタルカメラマガジン(7月18日)、フォトコン(7月18日)／Web：朝日新聞デジタルマガジン&[and]、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、毎日新聞デジタル                                                                                                                                                      |
| 来館者数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 合計23,691人(21日間)                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

動物たちの迫力ある写真から環境問題へ。  
クイズなどで関心を深める体験型の写真展

本展では、全体を大きく2つのスペースに分けて展示を行いました。メインとなるスペースでは世界9つの地域に生息する動物を取り上げ、生態やその環境を捉えた美しく迫力ある写真を展示。主に取り上げたのは、ホッキョクグマ(カナダ)、アメリカマナティー(米国)、ペニコンゴウインコ、ハチドリ(ペルー)、ベンガルタイガー(インド)、ボルネオオランウータン(マレーシア)、エンペラーペンギン(南極・オセアニアの亜南極の島々)、ジャイアントパンダ(中国)、ヤクシマザル、ヤクシカ(日本)、マンドリル(ガボン)です。

そしてもう1つのスペースでは、各地域で実際に起きている環境問題やその解決に向けた取り組みについて、自然環境の現状が分かる写真と解説パネルで深掘りしました。本展は、「公益信託富士フィルム・グリーンファンド」の事務局運営を担当している「一般財団法人 自然環境研究センター」による監修の下で、専門的になりがちな解説も、小学生にも理解しやすいよう平易な表現で伝えました。

会場には写真家が毎日在廊し、作品の背景の説明をしたり来館者からの質問に答えたりと丁寧に対応。また、会場で配布した「みんなで考える動物の未来クイズ!」の答えを探しながら何度も行き来する親子連れ、「動物の未来へのメッセージ」の用紙に、自分にできる保全・エコ活動のアイデアを書き込む子どもたちの姿も多く見られました。本展は単なる写真展にとどまらず、楽しみながら学ぶことができる体験型の環境啓発イベントとなりました。

写真家が子どもたちに思いを伝えるトークセッションと  
専門家を交えた深いディスカッション

写真展と並行して、写真家によるギャラリートークをはじめとするイベント「動物と環境のふしぎ」も開催しました。小・中学生と保護者向けに開催した写真家トークセッション「みんなで考える動物の未来」では、今回出展した9名の写真家が登壇(うち1名は動画出演)。普段の活動を通じて感じている動物や自然環境への思いなどを分かりやすく語りました。また、事前に募った質問に加え、会場参加者からの質問にも時間の許す限り答えるなどし、子どもたちが熱心に参加する姿に会場は大いに盛り上がりました。

また、大人を対象にした自然環境トークディスカッション「世界の生物多様性保全の現状と未来」では、写真家2名に加え研究者や自然保護活動に携わる企業の方など3名の専門家も加わり、自然環境問題に関する深い議論が交わされました。



《来館者の声》

- ペンギンが立って寝ている姿がすごかったです。たくさんの動物が絶滅の危機にひんしていることを知り、自分にできることをしていきたいと思いました。

珍しい動物の写真を鑑賞できてうれしかったです。学校の友達にもぜひ来て見てほしいです。

動物について詳しい知識を得ることができました。知らないことがたくさんあり、興味が一層強くなりました。

じっくりと鑑賞し、あっという間に2時間が経過していました! クイズも楽しかったです。



- 回遊型の明るく見やすい展示で素晴らしいかったです。

絶滅危惧種について改めて考える機会になりました。無料でこれだけ充実した内容が見られるのは大変素晴らしいと思います。

美しくもたくましい動物たちの姿に力をいただきました。

野生動物と自然環境の保全についてのクイズに回答しながら鑑賞することで、理解が深まりました。環境について考える良い機会になりました。

石川直樹写真展「ASCENT OF 14 2001-2024」  
～8,000メートル峰 14座への旅～

2025年8月29日(金)～9月18日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー

Ascent of 14  
2001-2024  
Naoki Ishikawa  
2025 8.29 FRI - 9.18 THU

石川直樹

1 First QOMOLANGMA  
1 Second EVEREST  
2 LHOTSE  
3 MAKALU  
4 GASHERBRUM II  
5 DHAULAGIRI  
6 KANGCHENJUNGA  
7 K2  
8 BROAD PEAK  
9 MANASLU  
10 ANNAPURNA  
11 NANGA PARBAT  
12 GASHERBRUM I  
13 CHO-OYU  
14 SHISHAPANGMA

フジフィルムスクエア 企画写真展

FUJIFILM SQUARE

会期中無休 入館無料 10:00 - 19:00 (最終日は14:00まで、入館は終了10分前まで) 主催 富士フィルム株式会社 後援 港区教育委員会

展示概要

石川直樹氏は、人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、世界中の都市から辺境まであらゆる場所を旅しながら写真を撮影し、数多くの展覧会や写真集で発表してきました。また、ノンフィクションなどの数々の著作でも知られています。

23歳の時に初めてチベットの大地に降り立ち、ヒマラヤへの長い旅の第一歩を踏み出した石川氏は、2001年5月、エベレスト登頂によって七大陸最高峰の登頂に当時世界最年少で成功。その後、ヒマラヤ山脈とカラコルム山脈にまたがって全部で14座ある、標高8,000メートルを超える山々へのチャレンジを続けました。

そして2024年10月、ついに最後の1座である「シシャパンマ」への登頂を果たします。日本人として2人目、写真家としては世界初の快挙でした。石川氏はその間、過酷な環境の中で中判のフィルムカメラを携え、自らの足取りを丹念に記録してきました。

「ASCENT OF 14 2001-2024」～8,000メートル峰14座への旅～と題した本展では、大きく引き伸ばした72点の銀写真プリントのほか、最初の遠征で撮影された貴重な182点のポジフィルム\*など、多くが初公開となる作品群を一堂に展示。石川氏が「ここにある写真群は、小手先の表現などではなく、まごうことなき自分の生の記録である」と表現しているように、14座完全登頂を達成した23年間にわたる挑戦の記録を振り返る大規模な展覧会となりました。その作品群は、荘厳な山々の姿や極限といえる山頂付近の状況から、麓の町の文化や人々が暮らす姿まで、登頂への厳しい道のりの中で石川氏が見て感じたイメージとして、見る者に強く訴えかけ、多くの来館者の胸を打ちました。

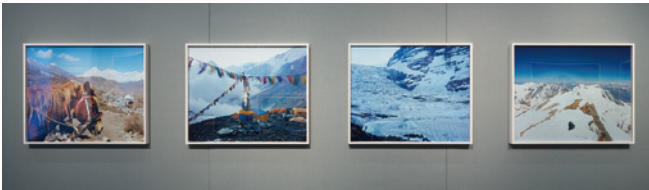
\*展示には複製を使用。

展示作品点数

72点+ポジフィルムスライド(複製) 182点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
後援:港区教育委員会  
デザイン:樋口舞子、山際悠輔  
プリント制作:フォトグラフィーズ・ラボラトリー



併催イベント

- ・石川直樹氏によるギャラリートーク  
2025年8月31日(日)・9月8日(月) 13:00～ ※各回約30分
- ・石川直樹氏による写真展開催記念アーティストトーク  
2025年9月3日(水) 18:00～19:30

販売物

- ・写真集『最後の山』(新潮社)
- ・写真集『シシャパンマ』(平凡社)
- ・写真集『K2』(小学館)
- ・ハンカチ、トートバッグ

主要メディア掲載

新聞:東京新聞(9月11日)、日本経済新聞夕刊(9月16日)／Web:東洋経済オンライン、毎日新聞デジタル、andGIRL、Pen Online、六本木未来会議、サードニュース、シェアアート、東京Days、PR TIMES、ファッションプレス、デジカメ Watch

来館者数

合計25,447人(21日間)

“一緒に冒険している”ような臨場感を演出した展示と空間デザイン

本展では、会場を14座ごとのコーナーに分けて展示しました。迫力と美しさに圧倒される山岳風景はもちろん、危険と隣り合わせの登山の様子やテントでの生活、同行するシェルパたち、町の人々や動物たちを捉えた作品も臨場感あふれるものばかり。石川氏が登頂までの出来事などを思い入れ豊かに記したコメントを掲出し、その言葉とともに作品をたどることで、まるで一緒に冒険をしているように感じられる構成としました。

また、8,000メートル峰14座への挑戦というスケールの大きさを表現する空間デザインにも工夫を凝らしました。入口横のガラスの壁面には、富士フィルムイメージングシステムズ制作によりエベレストの写真をプリントした幅約4メートルの巨大なバナーを窓の外側に向けて掲出。バナーの裏面には14座の地図を印刷し、来館者に山々の位置やスケール感が分かりやすく伝わるよう工夫しました。壁面には、山々の写真と石川氏のメッセージを組み合わせた大型パネルを掲示するなど、会場全体で世界観を創り出しました。



多くの参加者で熱気に包まれたトークイベント

会期中のトークイベントには、石川氏のお話を直接聞ける機会として多くの方に参加いただきました。当館2階の特設会場で開催したアーティストトークは申し込み多数で増席するなど大盛況に。14座の登頂の軌跡を、展示作品を含む画像や記録動画を上映しながら克明に伝えるトークで、会場は熱気に包まれました。また、写真展会場でのギャラリートークは、当館として過去最多の参加者数を記録。真剣に聞き入る聴衆を前に石川氏は、14座登頂を目指した経緯や、各座とも異なる難しさに挑む濃密な時間だったという登頂の状況、苦しさや喜びに満ちた忘れたくない記録として残した作品群への思いを、熱く語りました。質疑応答では、作品の背景などについて盛んに質問が投げかけられました。

最後の1座、シシャパンマ登頂の様子を記録した動画も上映。写真作品と相まって感動を伝える

本展は、熱心なファンが多い石川氏の最新の記録が見られる写真展だけに注目度が高く、写真や登山の愛好家に加え、親子連れなど、幅広い層の方々が来館されました。会場では、14座目のシシャパンマ登頂の様子を記録したドキュメント動画も上映。困難を極めた登頂の直後に「シシャパンマの主峰、一番高い所に着きました……みんなで着きました。ここより高いところは、どこにもない」と語った石川氏の言葉には、長い年月をかけてシェルパや仲間たちと完全登頂を成し遂げたことへの思いが凝縮されています。写真と動画が相まって伝わってくる迫力に、目を潤ませる来館者の姿も見られました。館内アンケートでも、偉業への称賛、現地の空気感までもが伝わる作品に共感する声が多数寄せられました。



動画視聴はこちら



「シシャパンマ」登頂ドキュメント動画



《来館者の声》

歴史的な挑戦の中で撮影された、とても迫力ある写真の数々に感動しました。山の素晴らしさ、神々しさが伝わりました。

8,000メートルを登らないと見られない、あの深い青色の空を見せてくれてありがとうございます。

格段に美しい風景に感動するとともに、登山のパーティーの様子がよく分かる俯瞰のショット、珍しい四季や動植物の景色など、どれも感嘆する写真ばかりでした。

石川さんの写真は生命力にあふれていて、いつも心をつかまれますが、今回の写真展は期待以上の素晴らしさでした。

石川さんの写真も文章も大好きです。14座の写真が一度に展示される貴重な機会である本展は、とても見応えがありました。

地球上にこのように素晴らしい場所があるのかと圧倒されました。

人間はすごい! 感動しました。

ヒマラヤの風が感じられるような展示でした。

登頂時の映像も流れており、自分も現地に行ったような感覚を味わうことができました。

## 岡田敦写真展「ユルリ島の馬 ～The Horses of Yururi Island～」

2026年2月20日(金)～3月5日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1



Yururi Island, March, 2018 ©Okada Atsushi

フジフィルム スクエア 企画写真展  
**岡田 敦 写真展**

**ユルリ島の馬**  
*The Horses of Yururi Island*

**東京展**  
2026年2月20日(金)～3月5日(木)  
10:00～19:00 最終日は16:00まで、入場は終了10分前まで  
富士フィルムフォトサロン 東京 **スペース1**

**札幌展**  
2026年9月18日(金)～9月23日(木)  
10:00～18:00 入場は終了10分前まで  
富士フィルムフォトサロン 札幌

**大阪展**  
2026年10月30日(金)～11月12日(木)  
10:00～19:00  
11月5日(金)・12日(木)は14:00まで、入場は終了10分前まで  
富士フィルムフォトサロン 大阪 **スペース1**

**FUJIFILM SQUARE**

北海道・稚内市に生まれた写真家の岡田敦氏は、大阪芸術大学在学中の2002年に富士フォトサロン新人賞を、また、2008年には木村伊兵衛写真賞を受賞。人間の内面や精神世界を、独自の感性でポートレートや風景写真で表現した作品が国内外で評価されています。

そして約15年前、日本の本土最東端、根室半島沖合に浮かぶ周囲8キロメートルの無人島「ユルリ島」の存在を知った岡田氏は、半世紀以上馬たちだけが暮らす上陸禁止のこの島を、2011年に市の許可を得て撮影してきました。ユルリ島は、昆布漁で栄えながらも高度経済成長に伴って人々が去り、やがて雄馬の引き上げが実施され、残された雌馬たちが緩やかに絶えることを運命づけられた島です。岡田氏はこの島の継続的な撮影、写真集・書籍の出版という一連の創作活動が高く評価され、東川賞特別作家賞やJRA賞馬事文化賞などを受賞しています。

本展では、人と馬が共に暮らした時代の名残を記録し、島の歴史を後世に残すべく撮影された作品群から、初展示の作品を中心に描写性の高い銀写真プリントによる写真作品23点、映像作品1点を展示。実際の馬たちの大きさまで引き伸ばした作品もあり、悲しくも美しい島の光景が、より強く鮮やかな印象を持って訴えかける空間となりました。

来館者からは、自らの人生と馬たちの姿を重ね合わせ、心を動かされたといった多くの感想が寄せられ、岡田氏と幅広い層の方々が交流し、写真展を通じて島の歴史を広く伝える貴重な機会にもなりました。



### 展示作品点数

写真作品23点+映像作品1点

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社      デザイン：新藤勝  
後援：港区教育委員会      プリント制作：株式会社 堀内カラー  
企画：合同会社PCT

### 併催イベント

・ 岡田敦氏によるギャラリートーク  
2026年2月22日(日)・3月1日(日) 14:00～ ※各回約30分

### 販売物

・ 写真集『The Horses of Yururi Island ユルリ島の馬』(青幻舎)  
・ 書籍『エピタフ 幻の島、ユルリの光跡』(インプレス)

### 来館者数

合計14,094人(14日間)

### 来館者の声

素晴らしい芸術作品をありがとうございます。島の全景写真が初めと終わりに配置され、島全体のイメージを持ちながら、時の経過と馬たちの変化を見てとれる展示が良かったです。

淡々と事実が記録されており、見た人がそれぞれに感じることでできる素晴らしい展示でした。この事実が多くの人の記憶に残ることを願います。

ゆっくりとした時間の流れを感じ、馬たちの思いが残るユルリ島の地に思いをはせました。

## 水谷章人写真展 photographer 60 years 「イメージ・ド・スポール “夢”」

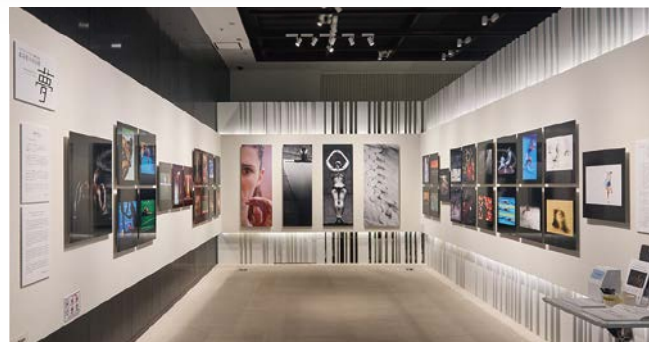
2026年3月6日(金)ー3月26日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



水谷章人氏は、報道の世界で数え切れないほどのアスリートの躍動する瞬間を捉え、さまざまな競技の感動を伝えてきたスポーツ写真の第一人者であり、「フジフィルム・フォトコレクション」収蔵作家の一人です。スポーツ写真家を目指す方に向け自ら立ち上げた「水谷塾」で後進育成にも尽力し、また一般社団法人 日本スポーツ写真協会の設立を推進しました。

2025年に写真家生活60周年を迎えた水谷氏は、近年、「記録」から「表現」へと視点を広げ、スポーツ写真の可能性を追求してきました。本展では、幻想的な構図、造形美、鮮やかな色彩、肉眼を超えた世界を捉えた写真を精選し、一流アスリートたちが勝負のさなかにその身体で描く華麗な軌跡や、自らの内にある緊張や恐れと闘う競技前の姿など、力強さと美しさが融合した世界を伝える作品を展示。競技記録としてのスポーツ写真を、夢や未来を感じさせる芸術表現として再構築することを試みました。

会期中3回にわたり開催したギャラリートークには、一般の方々に加え、写真家や出版社など、さまざまな業界の関係者も多数参加。スポーツ写真の黎明期を切り開き、創意工夫を続けた写真家人生を、ユーモアたっぷりに語る独特の水谷節に、会場は終始笑いや驚きの声であふれていました。



### 展示作品点数

38点

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社

後援：港区教育委員会

企画協力／デザイン：株式会社日本写真企画（「フォトコン」編集部）

プリント制作：プロラボ クリエイト

### 併催イベント

・水谷章人氏によるギャラリートーク

2026年3月8日(日)・14日(土)・20日(金・祝) 14:00~14:30

### 来館者数

合計12,945人(21日間)

### 来館者の声

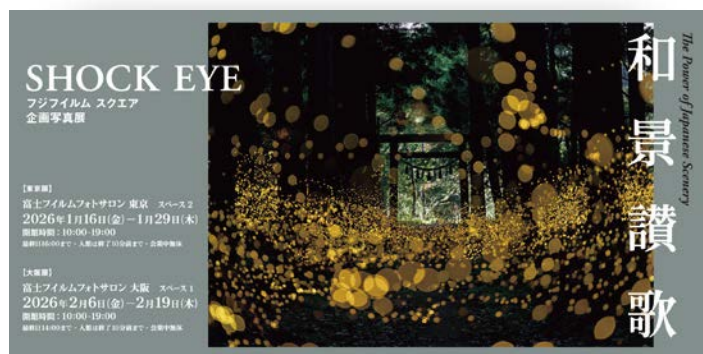
水谷さんの半端ではない集中力が震えます。動画ではなく、写真でしか伝わらない緊張感。さすがとしか言えません。人は美しい!と思わせてくれる作品ばかりでした。

躍動感があり、温かい写真でした。ずっと見ていたいと思いました!

躍動する色彩の流れに、スポーツが発するエネルギーの素晴らしさがあふれていました。

# 06 SHOCK EYE写真展「和景讃歌」 The Power of Japanese Scenery

2026年1月16日(金)～1月29日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2



湘南乃風での音楽活動とともに、写真家としての顔も持つSHOCK EYE氏。本展では、四季に彩られた「世界に誇れる日本の風景」をテーマに作品をセレクト。「和景讃歌」には、美しい日本の風景を通じて人々を元気にしたい、という思いが込められています。「歩くパワースポット」とも呼ばれる同氏が心動かされた風景の数々を、迫力ある銀写真プリントと同氏自らが漣いた和紙にプリントした作品を展示。多くの方がそれらの写真に込められたエネルギーを感じながらじっくりと鑑賞されていました。

## 展示作品点数

32点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
企画／デザイン：デジタルカメラマガジン編集部  
プリント制作：プロラボ クリエイト

## 併催イベント

・ SHOCK EYE氏によるトークイベント  
2026年1月17日(土) 14:00～15:00

## 来館者数

合計16,567人(14日間)



# 07 大橋和典写真展「那覇市・農連市場の記憶」 — 消えゆく市場と暮らしの息遣いの記録 —

2026年2月6日(金)～2月19日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



沖縄県那覇市の農連市場は、戦後から60余年続いた「<sup>あいたい</sup>相対取引」の生活市場。新聞社を経てフリーになり、現在は主に週刊誌で活動する大橋和典氏は、2012年に同市場を訪れて2017年に解体されるまでの5年間、その姿を写真に収めてきました。本展では昭和にタイムスリップしたような市場に漂う懐かしさと、そこに生き続けた人たちの息遣いや人情味を私たちに伝えました。

## 展示作品点数

40点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
協力：農連市場  
プリント制作：プロラボ クリエイト

## 併催イベント

・ 大橋和典氏によるギャラリートーク  
2026年2月11日(水・祝) 13:00～13:30

## 来館者数

合計13,559人(14日間)



## 08 19世紀、世界初の写真集 フォックス・タルボット『自然の鉛筆』

2025年10月17日(金)–10月30日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



英国の物理学者 W.H.フォックス・タルボットは1840年、史上初の複製可能なネガポジ法の写真術「カロタイプ」を発明し、1844年にこの「カロタイプ」を使って撮影した風景や建物・静物のプリント24点を貼り込んだ世界初の写真集『自然の鉛筆』を出版しました。本展では、富士フィルムが収蔵する同写真集を複写し、忠実に再現した銀写真プリントを展示。19世紀の写真技法と世界初の写真集の美しい描写をご覧いただきました。

### 展示作品点数

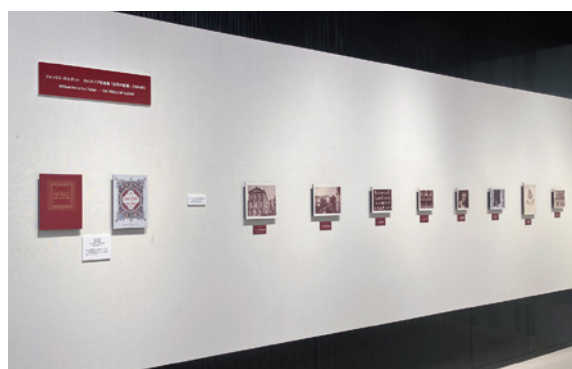
24点他

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社

### 来館者数

合計15,478人(14日間)



## 09 幕末明治を写した記録写真 Photographs of the Late Edo / Early Meiji Period ～フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 収蔵品より～

2025年6月13日(金)–7月17日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



幕末から明治初期に日本各地の名所・名跡や風俗を写し、鶏卵紙にプリントしたモノクロ写真に人工彩色した写真は「横浜写真」と呼ばれ、これをアルバムに貼り込んだ「横浜写真アルバム」は、来日外国人の土産として人気を博しました。本展では、富士フィルムが収蔵する横浜写真から、日本各地の風景写真と、当時の人々の生活や風俗を写した写真の2部に分けて計80点を展示し、日本独自の商業写真文化の魅力をお楽しみいただきました。

### 展示作品点数

- ①日本を紹介した各地の名所風景：45点
- ②日本を紹介した風俗・生活習慣：35点

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社

### 販売物

図録『幕末明治を写した記録写真』（富士フィルム）

### 来館者数

合計34,711人(35日間)



# 【写真家たちの新しい物語】大谷圭写真展「Breathing Tibet」 — 息づく人々、息づく大地 —

2025年3月28日(金)～4月17日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



*Ohya*

大谷圭 **Breathing Tibet** — 息づく人々、息づく大地 —  
写真展  
【東京】2025年3月28日(金)／4月17日(木) 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3  
【大阪】2025年5月16日(金)／5月29日(木) 富士フィルムフォトサロン 大阪 ホワイエ  
【札幌】2025年7月18日(金)／7月23日(水) 富士フィルムフォトサロン 札幌  
富士フィルムフォトサロン若手写真家応援プロジェクト FUJIFILM SQUARE

## 展示作品点数

20点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
企画：株式会社シー・エム・エス  
デザイン：中島雄太  
プリント制作：プロラボ クリエイト

## 併催イベント

・大谷圭氏によるギャラリートーク  
2025年3月30日(日)・4月5日(土)・12日(土) 13:00～ ※各回約30分

## 販売物

『Breathing Tibet』(自費出版)

## 来館者数

合計19,290人(21日間)

システムエンジニアとして働きながら2014年から2年半にわたり世界を放浪する中で写真を撮り始めた大谷圭氏。初めて訪れた中国のチベット自治区の雄大で美しい自然や、絶え間なく祈りを捧げる人々の姿に圧倒されました。その後インドのラダック地方を訪れた際、同じチベット文化圏でありながら人々の営みや空気感が全く異なることに感銘を受け、もっとこの地を理解したいとの思いから、チベット文化圏での撮影を続けています。

本展では、大谷氏が中国のチベット自治区、インドのラダック、ネパールのムスタンという3つの地域で、それぞれの地に根付く文化や風景、人々の信仰の様子を収めた作品によって、異なる背景を持ちながらも深くつながるチベットの精神に多角的に迫りました。10年以上思いを持って撮り続けた中から厳選した作品を美しい銀写真プリントで展示。チベットの奥深さ、その内に流れる精神的な豊かさや美しさを伝えました。大谷氏が作品について語るギャラリートークには大勢の方々が参加し、氏に質問を投げかける来館者の姿も多く見られました。展示に合わせて出版した写真集も非常に好評を得て、本展は見る人の心に深く響いた写真展となりました。



## 来館者の声

撮影者の渾身の一枚に出会え、とても充実した鑑賞時間を過ごすことができました。

チベット文化という共通の文化を持ちながら、各地域に特色があり興味深かったです。ポートレート写真の笑顔が素敵でした。

チベット文化圏の生活や文化の様子を知ることができ、大変有意義な写真展でした。

## 出展者の声

企画、構成、プリントなど各方面のプロの方々写真展を作り上げられたことは非常に良い経験となりました。応募時の想像とは全く違う構成となりましたが、その構成がとても好評で私自身も納得のいく展示となりました。一人では決してたどり着けないクオリティーの展示に到達できたのは、関係者の皆さまのご助言があったからです。ギャラリートークで多くの方々に前に話すという初めての機会もいただき、何を話すかを考える中で、撮ってきた写真と改めて向き合いました。なぜこの場所を撮影することになったのかを見つめ直し、自らの作品を再体験した感覚になりました。

## 【写真家たちの新しい物語】

## カジリョウスケ報道写真展「憧憬」

2025年8月15日(金)～9月4日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

FUJIFILM SQUARE

富士フィルムフォトサロン若手写真家応援プロジェクト  
【写真家たちの新しい物語】

カジリョウスケ報道写真展

# 憧憬

2025.  
8.15<sub>Fri</sub> → 9.4<sub>Thu</sub>  
富士フィルムフォトサロン 東京  
スペース3

会期中無休・入館無料 10:00～19:00  
(最終日は16:00まで/入館は終了10分前まで)



©Ryosuke KAJI

2009年に初めて馬術競技を撮影し、以来、競技への敬意と選手や馬に携わる人々への憧れを胸に、10年以上撮影を続けている写真家・カジリョウスケ氏。本展では、動物である「馬」と共に取り組む競技だからこそ見ることのできる、人々と馬たちの表情や情景を、競技中やその舞台裏など独自の視点で切り取った29点の作品を展示。馬術の奥深さや選手と馬との絆など、競技の魅力を伝えました。

障害馬術の飛越の瞬間を捉えた作品では、日本一を懸けた選手の気迫と馬の飛越姿勢の美しさを体感いただけるよう、作品に写る障害(バー)を実際の障害と同じ高さに合わせて展示。また、選手と馬が触れ合う場面を写した作品は、等身大までプリントを引き伸ばし、両者の間に流れる温かな空気が間近に感じられる展示としました。さらに、黙々と練習に励む選手の姿や、馬の蹄を水の膜がガラス細工のように美しく彩った一瞬など、さまざまなドラマを感じさせる写真の数々が、本競技に初めて触れた来館者をも魅了しました。

馬術関係者や競馬ファンの方々も多く訪れ、作品の臨場感と背景にあるストーリーを感じて涙する姿も見られたほか、国際大会にも出場した著名な選手が来場し、会場が沸き立つ場面もありました。

## 展示作品点数

29点

## 併催イベント

・カジリョウスケ氏によるギャラリートーク  
2025年8月23日(土)・24日(日)・  
30日(土) 13:00～ ※各回約30分

## クレジット

主催: 富士フィルム株式会社  
協力: JRA馬事公苑、  
一般社団法人 全日本学生馬術連盟  
後援: 港区教育委員会  
企画/デザイン: 株式会社ラジアン  
プリント制作: プロラボ クリエイト

## 来館者の声

馬術競技がさまざまな視点で捉えられており、はっとさせられる展示でした。

本展示で馬術競技を初めて知りました。ぜひ観戦しに行きたいと思います。

出展者の方が作品について丁寧にお話ししてくださり、より深く理解できました。



## 販売物

写真展図録「憧憬」(自費出版)

## 来館者数

合計23,849人(21日間)

## 出展者の声

写真家という立場から馬術の魅力を広める活動を続ける中で、フジフィルムスクエアでの個展は、いつか達成したい大きな目標でした。今回それがかない、普段馬術になじみがない多くの方々にも、競技に関わる人々や馬たちの魅力を質の高いプリントで伝えることができ、とてもうれしかったです。来館者の方から、「作品を見て初めて馬術競技を観戦しに行った」というメッセージもいただきました。また、本展の評判が伝わり、ラジオ出演や競馬雑誌からの取材など、貴重な機会にもつながっています。

## 【写真家たちの新しい物語】高橋海斗写真展「Ever-Flowing Life」

知床 一めぐりゆく時の中で—

2026年1月16日(金)–2月5日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト  
【写真家たちの新しい物語】



高橋海斗 写真展  
EVER-FLOWING LIFE  
知床 一めぐりゆく時の中で—

東京展 2026年1月16日(金)–2月5日(木)  
10:00–19:00 (最終日は16:00まで/入場は終了の10分前まで)  
富士フィルムフォトサロン 東京 **スペース3**  
[ギャラリートーク] 1月17日、24日、31日

大阪展 2026年3月27日(金)–4月9日(木)  
10:00–19:00 (4月2日(金)、4月9日(木)は14:00まで/入場は終了の10分前まで)  
富士フィルムフォトサロン 大阪 **ホワイエ**  
[ギャラリートーク] 3月28日(土)、29日(日)

主催: 富士フィルム株式会社/企画: 合同会社PCT /  
後援: 港区教育委員会 **FUJIFILM SQUARE**

## 展示作品点数

24点

## クレジット

主催: 富士フィルム株式会社  
後援: 港区教育委員会  
企画: 合同会社PCT  
デザイン: 新藤勝  
プリント制作: プロラボ クリエイト

## 併催イベント

・高橋海斗氏によるギャラリートーク  
2026年1月17日(土)・24日(土)・31日(土) 13:00～ ※各回約30分

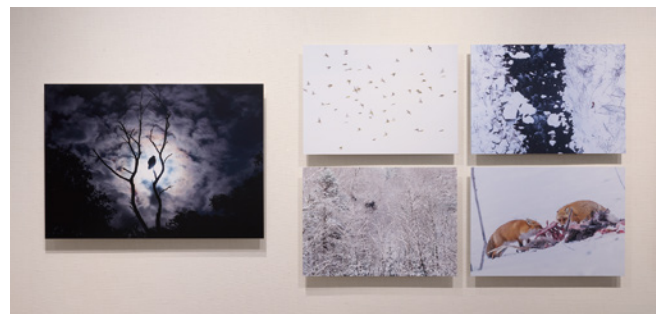
## 来館者数

合計23,362人(21日間)

写真家・高橋海斗氏は、幼い頃から山登りやキャンプを通じ、自然や生き物との出会いの中で体感した純粋な感動を入りに、生き物が生まれ死んでいく命の循環や、時の流れと共に移ろいゆく世界を撮り続けてきました。

高橋氏が高校卒業後の18歳のときに単身で移り住んだのが、憧れの地である北海道・知床半島でした。本展では、高橋氏が7年間知床で撮影を重ねた作品群より、選りすぐりの24点を展示。毎年押し寄せる流氷や、森を闊歩するヒグマ、遡上するサケマス、月夜に声を響かせるシマフクロウ——。氏が感じた生命の輝きが、臨場感のある銀写真プリントで余すことなく表現されました。

会場では、今回の作品と共に高橋氏がそれらの光景一つひとつに感じた思いをつづった小冊子を配布。展示作品と冊子に書かれた言葉をじっくりと味わう来館者の姿が多く見られました。涙を流しながら作品を見つめる方、この奥深い野生の光景が日本にあることを知って驚く海外出身の方もいらっしゃいました。高橋氏とゆかりのある表現者の方々をゲストに迎えて行われたギャラリートークでは、高橋氏の内面や、生命の科学・歴史などのテーマにまで話が及び、高橋氏の創作の奥深さに迫る時間となりました。



## 来館者の声

美しい知床の写真をゆっくり鑑賞することができました。

写真家ご本人に会ってお話を聞くことができ、大変良い時間を過ごせました。

昔知床へ旅行に行ったときのことを思い出しました。野生動物たちのさまざまなシーンが捉えられており、見入ってしまいました。

## 出展者の声

自分が積み重ねてきたもの、知床で過ごした7年間を作品として形にし、多くの方々と共有できたことを大変うれしく思います。関係者の方々に手厚くサポートいただき、美しいプリントで作品を展示できたことは、自分にとって大きな区切りとなりました。来館者の多様な表情や反応を間近で感じ、表現は制作時点で完結するのではなく、受け手の心と共鳴して初めて成立するものなのだと、改めて実感しています。また、人生で関わってきた方々との再会や写真関係者との出会いなど、自身のこれからにつながる貴重な機会にもなりました。

【写真家たちの新しい物語】

## 松田康司写真展「命めぐる海の物語」

2026年2月13日(金)～2月26日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

## 展示作品点数

41点

## クレジット

主催: 富士フィルム株式会社

協力: 株式会社フィッシュアイ

後援: 港区教育委員会

企画/デザイン: 株式会社日本写真企画(月刊『フォトコン』)

デザイン: 株式会社ラジアン

プリント制作: プロラボ クリエイト

## 併催イベント

・松田康司氏によるギャラリートーク  
2026年2月14日(土)・15日(日)・  
21日(土)・22日(日)  
13:00～ ※各回約30分

## 販売物

写真集『薩摩海記』(南方新社)

## 来館者数

合計14,189人(14日間)

潜水士として日本各地の海に潜ってきた松田康司氏は、地元・鹿児島に戻り水中ガイドをしながら、年間を通じて海の中の生き物たちを撮影しています。その中で見えてきたのが、人々が暮らすすぐ足元の海にも、命をつなぎ生き抜こうとする生き物の姿があるということです。

本展では、鹿児島の都市に隣接する海で松田氏が丹念に見つめてきた、私たちの想像を超える海の生き物たちの姿を銀写真プリントで展示。国内では発表される機会が少なかった貴重な産卵の瞬間、驚くべき方法で懸命に子どもを育てる多彩な生き物の姿、近隣にビルが建つ海の下に広がる色鮮やかな海藻の森など、身近な海に多様性に富んだ命の美しさが存在していることを伝えました。会場には松田氏の豊かな洞察力で得られた生き物たちの生態について、作品ごとに機知に富んだタイトルと解説文を掲示したほか、松田氏の手書きによる海中観察記録ノートを写真に添えて展示するコーナーも特設。幅広い層の方々が熱心に読み込み、感嘆する様子が見られました。ギャラリートークでは、生き物や撮影手法に関する多数の質問に松田氏が答え、参加者から初めて知る世界に触れた感動の声が上がるなど、大いに盛り上がりました。



## 来館者の声

写真に付けられているキャプションが作品を鑑賞する手引きになりました。じっくりと静かに、それぞれの写真に向き合うことができ、充実した時間を過ごせました。大満足の展示でした。

魂を揺さぶられるような写真との出会いがあり、素晴らしい鑑賞時間となりました。

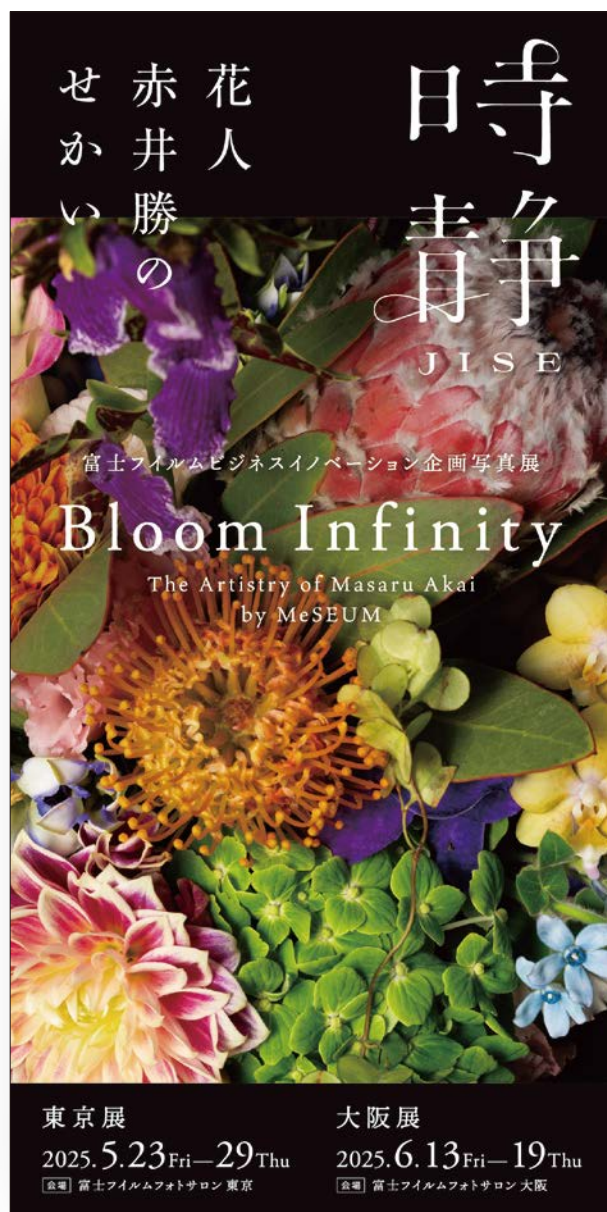
なかなか見ることでできない海の生き物の写真を鑑賞することができ、感動しました。

## 出展者の声

一般的にイメージされる青く澄んだ華やかな海とは異なる、身近な海の中の世界になじみがない多くの方々に、美しく尊い生き物たちの世界を説明する機会をいただき、本当にうれしかったです。会場では、新たな世界を深く深く見つめようとする方々に巡り会うことができました。皆さまから寄せられる感想は意表を突かれるものばかりで、非常に多くの学びがありました。また、海が見せる繊細で多様な青の色合いをクオリティーの高いプリントによって丁寧に再現いただき、作品に命が吹き込まれたと感じました。

# 時静-JISE- 花人 赤井勝のせかい Bloom Infinity- The Artistry of Masaru Akai by MeSEUM

2025年5月23日(金)～5月29日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2



花を通して心を伝えていくことを自らの仕事と考え、飾る花で見る人を心地よくおもてなしする「装花」という独自の世界を確立した「花人」・赤井勝氏。大胆かつ繊細な感性が生み出す独創的な空間は、見る人の心を揺さぶり、国内のみならず海外でも高く評価されています。本展では、鮮やかな色彩と躍動感、そして儚さが表現された装花作品の数々を色調豊かな銀写真プリント、および高品質プリンター「Revoria Press™ PC1120」により大きく引き伸ばしてプリントした作品を展示。花が放つエネルギーと生命の輝き、そして写真とのシナジーを来館者に堪能いただきました。

初日には赤井氏と親交のある各国特命全権大使夫人らによるコーラスが披露され、華々しいオープニングとなりました。また、会期中は著名人と赤井氏によるギャラリートークも複数開催。赤井氏の装花に魅せられた方々との競演で、その唯一無二の世界を浮かび上がらせました。また、“アーティスト(推し)好きをもっと好きに。”をコンセプトにした新セレクトコンテンツサービス「MeSEUM(ミージウム)」\*専用ECサイトにて、展示作品の一部を再現したレプリカ作品を販売する新しい試みも行いました。

\*“推し”のアーティストやキャラクターの画像から好きな画像を選んでオリジナルグッズを作成できる、株式会社電通と富士フィルムビジネスイノベーションが共同で実証実験しているサービス。  
MeSEUM販売サイト:<https://www.museum.shop/>



## 展示作品点数

58点

## クレジット

主催:富士フィルムビジネスイノベーション株式会社

後援:株式会社電通

企画/デザイン:デジタルカメラマガジン編集部

プリント制作:プロラボ クリエイト

## 併催イベント

- ・オープニングイベント(各国特命全権大使夫人によるコーラス)  
2025年5月23日(金) 10:00～ ※約30分
- ・赤井勝氏によるギャラリートーク(ゲスト: 萬田久子(俳優))  
2025年5月23日(金) 15:00～ ※約1時間
- ・赤井勝氏によるギャラリートーク(ゲスト: 佐藤和奏(モデル))  
2025年5月24日(土) 13:00～ ※約1時間
- ・赤井勝氏によるギャラリートーク(ゲスト: 中江康人(KANAMEL株式会社代表取締役グループCEO))  
2025年5月28日(水) 15:00～ ※約1時間

## 販売物

- ・写真集「時静 花人 赤井勝のせかい Bloom Infinity The Artistry of Masaru Akai」(インプレス)

## 来館者数

合計8,171人(7日間)

## 来館者の声

花の美しさはもちろんのこと、光と影の表現も絶妙で圧倒されました。

どれもこれも吸い込まれるような美しさでした。特にモノクロの作品は、花の息吹を感じるような魅力がありました。素敵な空間をありがとうございました。

花の色の素晴らしい組み合わせ、心に届いてくるような花々の息づかいを感じ、日常生活に刺激をいただきました。写真を引き立たせる余白にも美しさがあり、はっとしました。会場で赤井さんのお人柄にも触れることができ、うれしい機会でした。

## ポートフォリオレビュー／アワード 2025

2026年3月13日(金)～4月2日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2

## 開催の経緯

「ポートフォリオレビュー／アワード」は、45歳以下の写真家および写真家を志す方から作品を募集し、著名な写真家による作品講評会（ポートフォリオレビュー、以下レビュー）で作品についてアドバイスを提供するとともに、選考会を経て選出された写真家に個展開催の機会を提供するという企画です。

2025年度のレビュー（講評する講師）を務めたのは、公文健太郎氏、小林紀晴氏、藤岡亜弥氏、本城直季氏の4名です。

一次選考を通過した48名の中から、2025年9月に計2日間にわたり実施されたレビュー、二次選考で、最終選考会へと進む12名が選出されました。そして、10月の最終選考会でアワード受賞者4名が決まりました。

## 1. 講評会・選考会

## ■一次選考会

2025年7月

2025年4～6月に実施した作品募集に対し、全国から定員を大きく上回る応募をいただきました。その中から、レビューがレビュー参加者48名を選出しました。

## ■ポートフォリオレビュー 二次選考会

2025年9月6・20日

レビュー4名が参加者48名に対し、オンラインでレビューを実施。12名をファイナリストとして選出しました。

## ■ファイナリストレビュー 最終選考会

2025年10月18日

12名のファイナリストたちが、前回のレビューのアドバイスを生かしてブラッシュアップした作品に対して、レビュー4名がより深く個別にアドバイスを行いました。参加者とレビューとの熱い対話が、各人のその後の作品制作のレベルアップにつながる良い機会となりました。

そして、ファイナリストの中からレビューが1名ずつを推薦し、アワード受賞者4名を選出しました。

## 2. 写真展開催までの準備

アワード受賞者4名は、富士フィルムフォトサロンでの個展開催に向けて、それぞれを推薦したレビューと企画者から作品や展示に関するアドバイス、富士フィルムから制作に関する各種サポートを受けました。

具体的には、作品のセレクトや構成、編集、銀写真プリントや色校正、告知物・展示物の制作、告知作業、搬入作業などについて、多岐にわたる専門的なアドバイスや支援が行われました。受賞者たちは初体験の連続に試行錯誤しながらも、レビューを務めた著名な写真家や多くの関係者とのコミュニケーションを通じて、学びや発見、インスピレーションを得て、自らの創造性を発揮し、個展を実現させました。

## 受賞者の声（写真展開催までの準備について）

## 【小野陽平氏】

公文さんとの対話を通して、苦手意識を持っていた「人の内面や生活に入り込んでいく撮影」「言葉を大切に、慎重に選ぶ」ということに向き合うことができ、納得のいく展示となりました。改めて今後も作家活動を続けていきたいと思っています。

ふ ちょう  
【付 超氏】

レビューを受けて応募作品と全く異なるセルフポートレートに初挑戦し、藤岡さんの「必ず面白い作品になる。撮る前に考えすぎないように」という言葉を信じて走り抜きました。皆さんのサポートがなければ、今回の作品は生まれませんでした。



## 【千馬聖司氏】

テーマを絞れずにいた中、小林さんに助言いただいた「批評性を持つ写真表現」を目指して、見慣れた景色の印象を覆す撮影に挑戦し、作品が変わっていきました。手厚い支援を受け、写真選定やプリントの奥深さなど学ぶことがばかりでした。

## 【藤田エイミ氏】

「写真展は準備すべきことがこんなに多いのか」と驚きました。本城さんから「来館者が何かを感じて持ち帰ることができるよう、構成を分かりやすく」と幾度も助言いただき、鑑賞者との感覚のギャップに気づかされ、自身の作品への理解も深まりました。

## ポートフォリオレビュー／アワード 2025

2026年3月13日(金)～4月2日(木)  
富士フイルムフォトサロン 東京 スペース1・2



### 展示概要

本展では、本アワードを受賞した4名の出展者に、レビュー(推薦写真家)が写真展開催まで伴走し、ブラッシュアップした作品を、両者のコメントと共に展示しました。地形を変え続ける島の姿を10年にわたり追いつけた記録。地元の街の夜の姿を通し、自身や鑑賞者の心の解放を目指したスナップ。郊外の風景に溶け込む自らを捉え、小さな違和感を表現したポートレート。そして、セルフポートレートや日常のスナップを通して写し出された、作者自身の内面と向き合う試み。それぞれに新しく自由な切り口で追求された作品群によって、来館者に写真表現の未来を感じていただける写真展となりました。

#### ～レビュー 小林紀晴氏の言葉～

写真のコンテスト、あるいは審査に携わらせていただく際、常にある種の戸惑いと、気の重さが伴う。ひとさまの写真を勝手に選んだり、講評などしていいものだろうかという疑問がつきまとうからだ。写真教育というものがあるとしたら、私はその環境に身を置くことが多くなっているのだが、あるときから「果たして写真は教えられるのか」というのが大きな課題となった。今回もそれらのことを念頭に置きながら、臨んだ。

受賞者と伴走しながら展示まで持っていくのがこのアワードの最も特徴的な点だ。レビューから受賞者へのアドバイスが的確かどうかは、実は誰にも分からない。正解はないからだ。ただ限られた時間の中で、レビューは可能な限り誠実に、真摯に、受賞者と作品と対峙し、同じ方向に歩を進め、信じたことを伝える。

その上で、問いを投げかける。この問いかけが、レビューがすべき最大の仕事だと私は思っている。どのような球を投げるべきか。それを受賞者がどのように考え、やがて打ち返すのか。そこに創作の醍醐味と発見、そして喜びが潜んでいるはずだ。

だからこそ、誰も知らず、想像が及ばず、見るはずもなかった作品が生まれる。その未知なる作品をぜひ、ご覧ください。

(ポートフォリオレビュー／アワード2025総評より)

| 出展写真家および展示作品点数 |     |             |     |
|----------------|-----|-------------|-----|
| Vol.1 小野陽平     | 30点 | Vol.2 千馬聖司  | 32点 |
| Vol.3 付超       | 19点 | Vol.4 藤田エイミ | 48点 |

| 展示作品点数 |
|--------|
| 129点   |

| クレジット                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主催：富士フイルム株式会社<br>後援：港区教育委員会<br>企画／運営協力：株式会社コンタクト、デジタルカメラマガジン編集部<br>デザイン：長尾敦子<br>プリント制作：プロラボ クリエイト |

| 開催イベント                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・公文健太郎&小林紀晴&藤岡垂弥&本城直季によるトークショー(ハイブリッド開催)<br>2026年3月13日(金) 18:30～20:00<br>・受賞者&レビューによるギャラリートーク(小野陽平×公文健太郎、藤田エイミ×本城直季)<br>2026年3月22日(日) 13:30～14:30 |

| 販売物                                                               | 来館者数            |
|-------------------------------------------------------------------|-----------------|
| ・小野陽平作品集『繰り返される都市』(自費出版)<br>・千馬聖司冊子『ざわめきの肖像』(自費出版)<br>・藤田エイミ：缶バッジ | 合計19,115人(21日間) |

| 受賞者発表動画 |
|---------|
|---------|



動画視聴はこちら

### 実施レポート

4名の出展者は、著名写真家との熱い対話を通じて自らの表現を突き詰めるとともに、視野を大きく広げて独自性の高い展示を創り上げ、幅広い層の来館者に称賛いただきました。また、出展者は自らの作品について思いを込めて語るギャラリートークも経験。伴走の様子を追った動画を前に来館者と出展者が感慨深そうに対話する場面も見られました。こうした交流から多彩な視点や刺激を得て、出展者はさらなる作品作りへの意欲を新たにしていました。

#### Vol.1 小野陽平「島のかたち」(レビュー：公文健太郎)



小野氏は、島の大部分が採石場であり、都市を支えるために岩肌を削り、その形を変えていく瀬戸内海の男鹿島を10年にわたり撮影。島の姿を都市集中型社会の象徴とも捉えながら、島民の暮らしや思いにも目を向け、「都市と島」の対比では割り切れない社会の構造を、素直

に表現している点が評価されました。暴力的にも見える光景を美しく捉えた作品に、さまざまな思いを感じた来館者の方々が、小野氏と熱心に語り合っていました。

##### 【小野氏のコメント】

10年前と最近撮った写真それぞれの持ち味を生かしつつ、島の造形的な美しさも伝える構成を目指しました。来館者と話す中で鑑賞者が何を感じるのかを知り、作品に対する自分の考えも整理されるなど、多くの発見がありました。



動画視聴はこちら

#### Vol.2 千馬聖司「ざわめきの肖像」(レビュー：小林紀晴)



生まれ故郷であり、現在も暮らす地元・高松の夜にフォーカスし、人や街にカメラを向けることで、「知っているはずの街の再発見」に挑んだ千馬氏。街の人々とじっくり対峙し、日中の社会的役割から解放された姿を丁寧に撮影する中で、被写体と自分との距離感や関係性までも

写し取りました。会場では、被写体を通して千馬氏自身の心の解放感も伝わる写真に、不思議な心地よさを感じるという声が聞かれました。

##### 【千馬氏のコメント】

多様な属性の方の素顔を捉え続けるうちに、世界が広がる感覚を覚えしました。「東京かと思った」「高松にこういう人がいるんだ」といった声が多く、地方都市のイメージを崩せたのかなと、手応えを感じました。



動画視聴はこちら

#### Vol.3 付超「路傍のタニシ」(レビュー：藤岡垂弥)



光に惹かれ、街角の風景を撮り続けていた付氏は、レビューでのアドバイスを実践し、確立していた自身の撮影スタイルをあえて崩した、人生初のセルフポートレートに取り組みしました。郊外の街並みの中に、即興で自分の姿をさまざまな形で溶け込ませ、シャッター

を切り続けて生まれたコミカルな写真の世界観に加え、作品と作品をつなぐようにチェーンをあしらった展示で“違和感”を演出。多くの来館者が引き込まれていました。

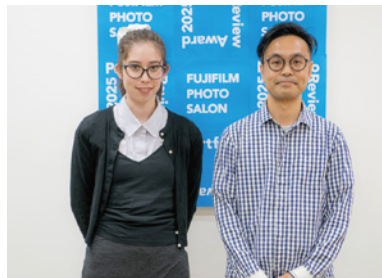
##### 【付氏のコメント】

最後まで皆さんとアイデアを出し合って工夫を重ね、予想以上の展示に仕上がりました。未知の探検のようだった本展を終え、大きな達成感を感じています。今後も面白い撮影や見せ方に挑戦したいです。



動画視聴はこちら

#### Vol.4 藤田エイミ「合わない靴で来ちゃったみたい」(レビュー：本城直季)



多国籍のルーツを持つ外国人として日本で生きてきたという藤田氏。自分自身を他人のように見つめる距離感が写し出された独自のセルフポートレートに、日常のスナップを組み合わせた作品群は、豊かなストーリー性が評価されました。自らのルーツや父の死を見つめる

という一見重いテーマを、明るい雰囲気 で表現した展示が好評で、来館者が多様な解釈で捉えた感想を藤田氏に伝える姿が見られました。

##### 【藤田氏のコメント】

何げなく見える写真が多いので、点数を増やし、構成や配置の変化でインパクトを出すことを狙いました。撮影意図を超えるご感想を多数いただき、展示について考え抜き、準備するほど返ってくるものが多いのだと思いました。



動画視聴はこちら

### 来館者の声 (Vol.1～Vol.4)

若手写真家を支援、エンカレッジする素晴らしい企画だと感じました。

4人の若手写真家の作品を一度に見ることができ、その感性に触れることができるという点が非常に興味深かったです。

トークショーに参加し、出展者が著名な写真家の方からサポートを受け、写真家として成長された過程を感じることができました。それを一般の私たちと共有してもらえることが大変素晴らしいかったです。とても良いイベントだと思います。

個性あふれる写真が数多くあり、刺激を受けました。

# GFX Challenge Grant Program 2024 ～Make Your Next Great Image～

2025年10月31日(金)～11月20日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・3・ミニギャラリー



## 展示概要

世界各国・地域で活躍するクリエイターを支援する富士フィルム主催の助成金プログラム「GFX Challenge Grant Program」。4回目となる今回も、2024年7～9月、全世界を3つに分けた各地域から、クリエイティブなアイデアと制作テーマをまとめた撮影企画書を募集。地域別での一次・二次選考、外部審査員を招きグローバルで実施した最終選考を経て、2025年1月に受賞15テーマが決定しました。その後、制作活動のサポートとして「Global Grant Award(大賞)」受賞者5名には10,000ドル相当、「Regional Grant Award(優秀賞)」受賞者10名には5,000ドル相当の助成金を提供するとともに、制作用機材として超高画質撮影が可能な「富士フィルム ラージフォーマット デジタルカメラシステム GFX」を無償貸与しました。

本展では、約6カ月の制作期間を経て完成した15名のクリエイターによる15作品を展示。社会的課題の提起や芸術性を追求したオリジナリティーあふれる写真作品を、富士フィルムの銀写真プリントで披露したほか、動画作品をモニターで上映しました。

また前年に引き続き、キュレーターをはじめとした3名によるポートフォリオレビューを実施(非公開)。助成金と機材に加え、より踏み込んだ支援を行うことで、クリエイターの方々から好評をいただきました。

### 出展クリエイター

- Global Grant Award 受賞者  
セサル・グアルディア・アレマーニ(César Guardia Alemañi)／アルゼンチン、クラウディア・グアダラマ(Claudia Guadarrama)／メキシコ、ジャンルカ・ランチャイ(Gianluca Lanciai)／イタリア、鈴木萌／日本、レイニス・ホフマニス(Reinis Hofmanis)／ラトビア
- Regional Grant Award 受賞者  
ダスル・リー(Da-seul Lee)／韓国、デヴィッド・フルデ(David Fulde)／カナダ、ギャヴィン・マクスウェル(Gavin Maxwell)／英国、グレッチェン・ケイ・スチュアート(Gretchen Kay Stuart)／米国、ジャレッド・ワキニー(Jared Wahkinney)／米国、カーリ・ブラウン(Kahli Brown)／ナイジェリア、クリスティーナ・ニコロヴァ(Kristina Nikolova)／イタリア、ルオ・フェイ(Luo Fei)／中国、安西剛／日本、イー・シエン・リー(Yi Hsien Lee)／台湾



展示作品点数  
221点+動画2点

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社      デザイン：長尾敦子  
企画：株式会社コンタクト      プリント制作：プロラボ クリエイト

### Web公開動画

15作品の写真家によるメイキング映像



### 来館者数

合計19,602人(21日間)

## 世界各地から多様な作品が集結。プログラムへの注目度もアップ

今回受賞したのは、アルゼンチン、メキシコ、イタリア、日本、ラトビア、韓国、カナダ、英国、米国、ナイジェリア、中国、台湾と、世界各地のクリエイター15名。内容的にはメッセージ性の高いドキュメンタリー系の作品を中心に、写真だけでなく動画や、写真と動画のメディアミックスなども含む多様な表現の作品が集結しました。

展示においては、社会・歴史・文化・人間などのテーマを掘り下げた各作品について、込められたメッセージを最も効果的に伝えられる空間デザインやレイアウトを追求。開催初日に合わせて来日・来場した15名のクリエイターからは、そうした工夫や銀写真プリントの繊細な色表現に対して、またクリエイター同士で互いの作品を見て刺激を受ける機会が得られたことに対して、喜びと感謝の言葉をいただきました。来館者からも、本プログラムの取り組みや各作品の高い表現力を称賛する多くの感想が寄せられました。

本プログラムへの応募数は昨年を上回り2,500件を超え、注目度は着実に高まっています。また、今回受賞したプロジェクトを基にした2つの記事が作品を含め『ニューズウィーク日本版』に掲載されるなど、受賞がクリエイターのさらなる活動につながる実績も生まれました。富士フィルムは今後も本プログラムを継続し、若手をはじめ才能ある世界のクリエイターによる写真・映像作品の創造と発表の場づくりに貢献していきます。



【大賞】セサル・グアルディア・アレマーニ(César Guardia Alemañi)〈アルゼンチン〉  
「Echoes of Resilience(復興の響き)」  
1944年にアルゼンチンのサン・フアンを襲った壊滅的な地震の記憶に光を当て、自身の祖母の体験を基に、象徴的なシーンを写真で再現したプロジェクト。災害を機に表出した不屈の人間の本質を表現した



【大賞】ジャンルカ・ランチャイ(Gianluca Lanciai)〈イタリア〉  
「Timeland(タイムランド)」  
驚異的な長寿で知られるイタリア・サルデーニャ島に生きる人々の生活・文化と自然との独自のつながりを探るプロジェクト。背景となる事実や伝説などを記した丁寧なキャプションを添え、作品理解の助けとしている



【大賞】クラウディア・グアダラマ(Claudia Guadarrama)〈メキシコ〉  
「Rewriting memory. Intimate territories in resistance(書き換えられる記憶)」  
森林破壊と土地奪取に抵抗し、コミュニティや多様な生物を守ろうと闘っているメキシコ・ユカタン半島のマヤの女性たち。小さな行動で大きな変革を成し遂げてきたごく普通の女性たちの姿を写真とキャプションで伝える



【大賞】レイニス・ホフマニス(Reinis Hofmanis)〈ラトビア〉  
「Shared Horizon(分かち合う地平線)」  
ラトビア東部のロシア国境。かつて曖昧だった境界には現在、フェンスなどの物理的な線が引かれている。地政学と生態系と人間の経験が交差する動的な空間としての国境を捉えた作品群には、独特の緊張感があふれる

## 作品のメッセージを的確に伝える実験的な表現や展示方法の工夫



今回は、作品自体の表現手法やその展示方法などに新たな広がりが見られました。大賞受賞作「Kusari」では、日常に侵入した汚染物質を象徴するため、身近なシーンの写真プリントに非常に小さな穴を無数に開けるなどの加工で違和感を表現する斬新な手法を使用。優秀賞受賞作「Ultra Giant Micro Plastic」では、数ミリ大のマイクロプラスチックを撮影し100倍程度に拡大プリントした作品と併せて、実際の被写体であるプラスチックの実物を展示するなど、作品を補完する工夫でメッセージをより的確に伝える試みを行いました。

【大賞】鈴木萌(日本)  
「Kusari」  
2022年の岡山県。化学物質PFASによる水道汚染が水源のダムから広がり、人々の日常に影を落としていく。現地リサーチと、その水を日常生活で利用してきた人々から集められた証言でつづられたプロジェクト

### 《来館者の声》

それぞれの写真家の表現に強く感銘を受けました。素晴らしい写真展です。

作品にそれぞれの作家の制作意図やコンセプトの説明文が付いていたので、内容を深く理解でき、非常に良かったです。

出展作品のテーマ、写真家の選定が素晴らしいと思います。

どの写真家からも伝えたいストーリーを感じ、強い思いに感情を揺さぶられるものばかりでした。

このように世界の多数のクリエイターの写真展を一度に鑑賞できるチャンスはなかなかなく、素晴らしい企画だと思います。

何げない瞬間を捉えた写真の中にも、孤独や切なさが伝わってきました。

世界各国のさまざまな境遇で育った人たちが、どのような思いでその瞬間を写真に収めたか、メイキング動画を見ることで、作品の背景にあるドラマを知ることができました。クリエイターが捉えたその瞬間の価値の高さに共感しました。

ピッコラ フェリチタ  
 ～Piccola felicità 小さな幸せ～ 企画:水谷 豊 × 撮影:会田 正裕  
 FUJIFILM GFX100 II コラボレーション

2025年4月25日(金)～5月15日(木)  
 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3・ミニギャラリー



富士フィルム企画写真展  
 ピッコラ フェリチタ  
 ～Piccola felicità 小さな幸せ～  
**写真展**  
 企画 水谷 豊 × 撮影 会田 正裕  
 FUJIFILM GFX100 II コラボレーション

2025年  
 4月25日(金) - 5月15日(木)  
 10:00 - 19:00 **入館無料**  
 会期中無休(最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで)

**FUJIFILM SQUARE**

本展は、俳優・水谷豊氏が企画し、撮影監督の会田正裕氏が富士フィルムのラージフォーマットセンサー搭載デジタルカメラ[FUJIFILM GFX100 II]を使って撮影した写真作品を披露した特別企画展です。アート作品のような躍動感や静謐性を秘める40点のポートレート作品群を、大判サイズの銀写真プリントで展示しました。

会場に並んだのは、ドラマ「相棒」をはじめとする数々の映像作品を撮影し、幼い頃から写真の撮影も続けている会田氏が、映像作品の撮影現場で、演技でもなく素顔とも違う俳優たちの一瞬の表情を捉えた作品です。時間の流れの中に物語を紡ぐ「映画」と、流れ去るはずの一瞬を切り取ることで永遠を宿す「写真」。その間に広がる目には見えない時間の境界に立ち、写真を撮ることで、撮影監督として会田氏が感じている時間の揺らぎを表現する試みとなりました。来館者からは、俳優たちの、俳優としての時間と、俳優以外の一人の人間としての人生がにじむ豊かな表情にも注目が集まりました。



#### 撮影監督

会田正裕

#### 展示作品点数

40点+スライドショー

#### クレジット

主催:富士フィルム株式会社

企画:水谷豊

プリント制作:プロラボ クリエイト

#### 併催イベント

- ・会田正裕氏によるギャラリートーク  
 2025年5月10日(土)・11日(日) 16:00～ ※各回約30分

#### 来館者数

合計20,439人(21日間)

## 故 萩原史郎トリビュート「淡きひかりのありか」

2025年5月16日(金)–6月12日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

写真誌『風景写真』創刊後、風景写真家として写真誌寄稿、コンテスト審査員、写真教室講師など幅広く活動した萩原史郎(1959–2023)。本展では、萩原の三回忌を迎えるにあたり、当社の「GFXシリーズ」で撮影された彼の代表作から、水辺に浮かぶ草花など身近な風景への優しい眼差しが色濃く感じられる未発表作品までを展示。萩原と親交の深かった辰野清氏、佐藤尚氏、喜多規子氏、萩原れいこ氏らが「GFXシリーズ」で撮影した作品もトリビュート展示し、彼の功績に改めて光を当てました。

## 出展写真家

萩原史郎、辰野清、佐藤尚、喜多規子、萩原れいこ

## 展示作品点数

13点

## クレジット

主催：富士フィルムイメージング  
システムズ株式会社  
企画：株式会社風景写真出版デザイン：三村漢  
プリント制作：プロラボ クリエイト

## 併催イベント

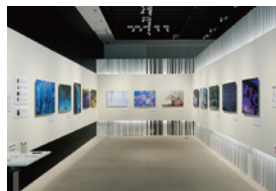
- ・ギャラリートーク(講師：辰野清、喜多規子)  
2025年5月24日(土) 16:00～ ※約30分
- ・ギャラリートーク(講師：佐藤尚、萩原れい子)  
2025年5月25日(日) 16:00～ ※約30分

## 販売物

萩原史郎写真集『生まれいずる』  
(私家版)

## 来館者数

合計28,939人(28日間)



## 第9回アフリカ開発会議(TICAD9)開催記念写真展

## 「Together for Africa: Ending TB, Bringing More Smiles」

2025年8月15日(金)–8月28日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー

## 展示作品点数

68点

## クレジット

主催：ストップ結核パートナーシップ  
共催：富士フィルム株式会社  
後援：厚生労働省  
企画／デザイン：株式会社ラジアン  
プリント制作：プロラボ クリエイト

## 来館者数

合計15,555人(14日間)

2025年に横浜で開催された「第9回アフリカ開発会議(TICAD9)」を記念し、国連主催の国際組織「ストップ結核パートナーシップ」と富士フィルムが共催した写真展です。アフリカで結核と向き合う人々の姿や、支援の輪が広がる様子を伝える写真を通して、世界的な公衆衛生上の課題である、結核終息に向けたグローバルな協力の重要性を伝えました。



## 20 VR PHOTO COMPETITION 2025 入賞作品展

2025年12月12日(金)ー12月26日(金)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



メタバースなどのVR(仮想)空間で、露出、フォーカス、構図を追求し、現実世界での工程さながらに撮影を行うVR PHOTO。その画像を高画質な銀写真プリントに仕上げることで、実体を持つ「アート作品」として多くの方に鑑賞いただきたいと考え開催している公募展です。4回目となる今回は「今年のとびきりのお気に入りの1枚」をテーマに募集し、入賞作品14点を展示。創造の高みを目指すVR Photographerたちの独創的な作品群に、多くの方から高い関心が寄せられました。

### 展示作品点数

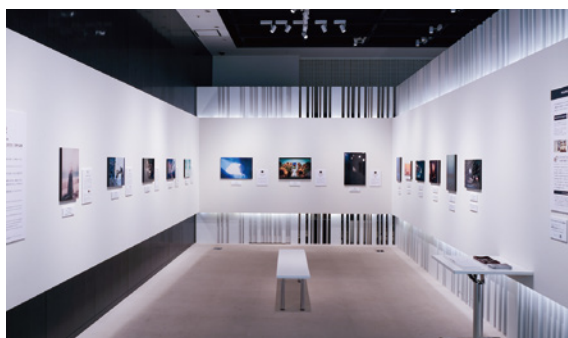
14点

### クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
企画:一般社団法人メイクスマイルプロジェクト  
デザイン:株式会社サンクスギビング  
プリント制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

### 来館者数

合計20,082人(15日間)



## 21 Mikael Cronwall写真展 「The Swedish Monument/The Godzilla Series」

2026年2月20日(金)ー3月5日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



ストックホルムを拠点に活動するスウェーデン人写真家、Mikael Cronwall氏。「The Swedish Monument」は、彼がスウェーデン各地に建立されたモニュメントに焦点を当て、それぞれの追悼や讃辞の意味を探り、モノクロ写真に収めたものです。一方、「The Godzilla Series」は、東京の今の光景を好奇心に満ちた視点でカラー写真に収めたもの。対照的な両作品群の展示を通し、急激に変化する社会における人間の複雑な営みを浮き彫りにしました。

### 展示作品点数

21点

### クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
プリント制作:プロラボ クリエイト

### 販売物

『The Swedish Monument』(自費出版)

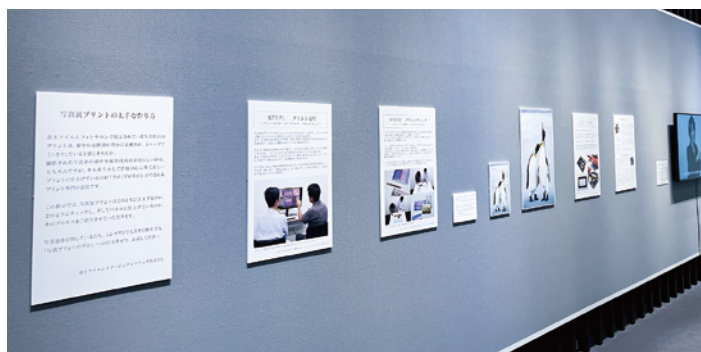
### 来館者数

合計14,094人(14日間)



## 22 「写真展プリントの上手な作り方」

2025年10月17日(金)～10月30日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



本展では、写真展で飾られるような「高品質のプリント」を、プリントからパネル加工までワンストップで注文できる「ラボ」についてパネルで解説。どなたでも1枚から注文でき、プロによるプリントで自身の作品を生き生きとした仕上がりで楽しめることなど、幅広い方々の作品作りのパートナーとなるラボについて、広く知っていただく機会としました。

### 出展写真家

岡田裕介、高野ユリカ、佐藤輝、前山和敏、MARCO、吉永陽一、Rinaty  
(五十音順・敬称略)

### 展示作品点数

A2サイズ、解説パネル:5点  
写真展用プリント(パネル加工済み):7点

### クレジット

主催/プリント制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

### 来館者数

合計15,478人(14日間)



## 23 「大切な写真をカタチにする喜び」

2025年11月21日(金)～12月11日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



富士フィルムでは、写真撮影や写真プリントを通じて人生の幸福度を高める「写真幸福論」プロジェクトに取り組んでいます。本展はこれに連動し、友達や家族、「推し」などのとっておきの写真を額に入れて飾ったり、フォトブックにまとめたりと、大切な写真をカタチにする方法をフォトグッズ製品の展示と共に紹介。「世界にひとつだけのたからもの」や、家に「幸せの居場所」をつくり、多様な生活シーンで「幸せ」に触れる喜びを体感いただきました。

### 出展写真家

坂井田富三、平林美紀、元田敬三、吉住志穂 (五十音順・敬称略)

### 展示作品点数

photobookハードカバー:3冊、photoZINE:1冊、ARTBOOK:1冊、  
トートバッグ:2点、マグカップ:2点、Tシャツ:3点、COYOMIカレンダー:3点、  
+Precious frame:3点

### クレジット

主催/プリント制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社  
企画/デザイン:富士フィルムビジネスエクスパート株式会社

### 来館者数

合計31,883人(21日間)



# 24 「第63回 富士フィルムフォトコンテスト」 入賞作品発表展

2025年4月18日(金)～5月1日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2



1950年に第1回を開催して以来、半世紀以上の歴史を持つ国内有数のフォトコンテストとして知られる本コンテストには、今回も写真愛好家の皆さまから22,729点の作品をご応募いただきました。本展は厳正な審査を経て決定した「自由写真」「ネイチャーフォト」「組写真」「アンダー39」の4部門の入賞作品171点を最高品質の銀写真プリントで展示。感性豊かな作品の数々が多くの方の心を捉えていました。

## 審査員

自由写真部門：熊切大輔、ネイチャーフォト部門：岡本洋子、  
組写真部門：GOTO AKI、アンダー39部門：川島小鳥

## 展示作品点数

171点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
協力：株式会社日本写真企画  
デザイン：CA黒澤王彦  
プリント制作：プロラボ クリエイト

## 販売物

第58～63回富士フィルムフォト  
コンテスト作品集  
(富士フィルム株式会社)

## 来館者数

合計12,043人(14日間)

# 25

2025年7月18日(金)～7月23日(水)  
東京ミッドタウン・フジフィルム スクエア

## “PHOTO IS”想いをつなぐ。 あなたが主役の写真展2025



本展は、出展者全員の作品が“写真に込められた想い”と共にご自身の選んだ会場に必ず展示される参加型写真展です。19回目となった2025年は「お気に入りの1枚」「笑顔になる瞬間(とき)」「インスタグラム」などの部門に幅広い年代の方から約3万点を ご応募いただき、東京会場である当館および東京ミッドタウン(六本木)をはじめ福岡・大阪会場でのプリント作品展示とともに、オンラインでも公開。来場者が共感した作品に対する感想を記したメッセージが出展者に届けられる「絆メッセージ」を通して、たくさんの想いをつなぎました。

## 展示作品点数

東京会場：16,845点 福岡会場：3,573点 合計12,007人(6日間)  
大阪会場：9,667点

## 来館者数

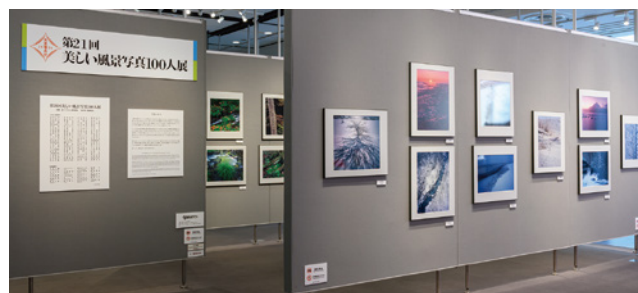
## クレジット

主催：富士フィルム株式会社、富士フィルムイメージングシステムズ株式会社  
協力：公益社団法人 日本写真家協会、公益社団法人 日本広告写真家協会、  
公益社団法人 日本写真協会、全日本写真材料商組合連合会、  
フジカラー総合ラボグループ、日本鉄道写真作家協会

# 26

2026年1月5日(月)～1月15日(木)  
富士フィルムフォトサロン  
東京 スペース1・2・3・ミニギャラリー

## 「第21回美しい風景写真100人展」 「風景写真Xtension展」



「第21回美しい風景写真100人展」は、全国の風景写真家からご応募いただいた銀塩フィルムで捉えた日本の美しい風景写真作品から、「100人展部門」「学生部門」の2部門で選考された作品と招待作家による作品合わせて120点を展示。「風景写真Xtension展」では、当社の「GFXシリーズ」「Xシリーズ」で撮影された、アマチュア風景写真家による応募作品から選考された35点、招待作家15名による作品15点を展示しました。日本の四季折々の風景が見せる一瞬の美を凝縮した作品が集い、新年にふさわしい写真展となりました。

## 展示作品点数

「第21回美しい風景写真100人展」：120点(100人展部門100点、学生部門20点)  
「風景写真Xtension展」：50点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社、株式会社風景写真出版  
プリント制作：カラープリント／プロラボ クリエイト、モノクロプリント／写真弘社

## 併催イベント

・写真家と永原耕治氏(隔月刊『風景写真』編集長)によるギャラリートーク  
2026年1月5日(月) 14:00～ 講師：鈴木一雄氏／9日(金) 16:00～ 講師：辰野清氏／  
10日(土) 13:30～ 講師：喜多規子氏／11日(日) 14:00～ 講師：前川彰一氏  
※各回約30分

## 販売物

・『美しい風景写真100人展／風景写真  
Xtension展 作品集』(風景写真出版)

## 来館者数

合計13,225人(11日間)

## 27 富士フィルム海老名Minerva AFC 写真展

2026年1月16日(金)～2月5日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



本展は、国内アメリカンフットボール最高峰リーグ「X1 Super」の2025年秋季リーグ戦で、富士フィルムホールディングスがメインスポンサーを務める「富士フィルム海老名Minerva AFC」が繰り広げた激しく熱いプレーを迫力ある写真で伝えました。アメリカンフットボール公式戦として秩父宮ラグビー場で史上初開催となり、大観衆と一体になって戦った開幕戦の様子や、「X1 Super」で初勝利を収めた第2節の戦いを中心に展示。競技と仕事で自己実現を目指す選手たちの姿に、来館者から共感や激励の声が寄せられました。

### 展示作品点数

24点

### クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
共催:一般社団法人海老名Minerva AFC  
企画/デザイン:株式会社ラジアン  
プリント制作:プロラボ クリエイト

### 来館者数

合計23,362人(21日間)



## 28 日本社会人アメリカンフットボール Xリーグ 「X1 Super 2025 秋季リーグ戦 開幕記念写真展」

2025年9月5日(金)～9月18日(木)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



「X1 Super」2025年秋季リーグ戦の開幕に合わせて、当季に同リーグの戦いに臨む選手たちがそれまでに見せた真剣勝負の様子を伝える写真展を開催しました。全12チームの熱戦を捉えた写真を、各チームの見どころの解説文と共に展示。鍛え上げられた体と強い気迫でぶつかり合う選手たちの姿やチーム戦術が光る競技の魅力を、幅広い層の方々に感じていただく機会となりました。

### 展示作品点数

36点

### クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
共催:一般社団法人 日本社会人アメリカンフットボール協会  
企画/デザイン:株式会社ラジアン  
プリント制作:プロラボ クリエイト

### 来館者数

合計17,153人(14日間)



## 土田ヒロミ写真展「俗神」

2025年3月27日(木)ー6月30日(月)  
写真歴史博物館

土田ヒロミ  
写真展  
ZOKUSHIN  
HIROMI TSUCHIDA  
PHOTO EXHIBITION

俗神



2025年3月27日(木)ー6月30日(月)

10:00ー19:00 (最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで) 会期中無休・入館無料

主催：富士フイルム株式会社 協力：Office Nirvana 土田ヒロミ  
企画：コンタクト 後援：港区教育委員会

写真：一色繁茂 1969年 40歳頃 40歳

FUJIFILM SQUARE

## 展示作品点数

28点

## クレジット

主催：富士フイルム株式会社 企画：株式会社コンタクト  
協力：Office Nirvana 土田ヒロミ デザイン：遠藤一成  
後援：港区教育委員会

## 併催イベント

・土田ヒロミ氏によるギャラリートーク  
2025年4月5日(土)・5月24日(土) 14:00～ ※各回約30分

## 販売物

・写真集「増補改訂 俗神」(冬青社)  
・写真集「ウロボロスのゆくえ」(Akio Nagasawa Publishing + Case Publishing)

## 主要メディア掲載

新聞：東奥日報(3月27日)、日本経済新聞(東京、札幌、名古屋、大阪、福岡、5月25日)／  
写真・カメラ紙(誌)：CAPA(3月19日、4月18日、5月20日、6月19日)、フォトコン(3月  
19日、4月18日、5月20日)、隔月刊「風景写真」(4月18日、6月19日)／その他雑誌：  
月刊ギャラリー(4月1日、5月1日、6月1日)／Web：東洋経済オンライン、NIKKEI  
COMPASS、PRESIDENT Online、毎日新聞

土田ヒロミ氏は1939年に福井県に生まれ、1971年、若手写真家の登竜門だった太陽賞を受賞した「自閉空間」で本格的にデビュー。以来、戦後日本を代表する写真家として多彩なテーマで意欲的な作品を発表し続けており、当社「フジフイルム・フォトコレクション」でもその作品を収蔵しています。土田氏の名を世に知らしめたのが、シリーズ「俗神」です。土田氏は1968年から1975年に青森から沖縄まで全国を歴訪。急速な経済成長が土着的なものを容赦なく侵食する中で、時代を超えて継承されてきた土俗的なハレの場、特に大衆や風物の中に生き続ける日本人の土俗的感性を赤裸々に記録しました。同シリーズの作品は、1974年に日本の写真家を海外で初めて大規模に紹介したニューヨーク近代美術館での「New Japanese Photography」展にも出品されました。

本展では「俗神」から精選したゼラチンシルバープリントによる28点の写真を披露。1976年に「自閉空間」からの作品も加えて刊行され反響を呼んだ写真集「俗神」の初版と、2004年の増補改訂版の実物も展示しました。会期中には土田氏による2回のギャラリートークを開催。制作当時の時代背景や現代的意義、個々の作品解説、撮影エピソードなどが土田氏自身の言葉で語られることで、発表以来50年近くを経た今日の視点から「俗神」の世界を振り返る貴重な機会となりました。

会場では、幅広い年代の方々がコンシェルジュの解説を受け、興味深そうに質問を投げかける姿が見られました。館内アンケートでも、日本にかつてあった土俗の世界を克明に残した作品を、オリジナルプリントで見られたことに感動する声などが多く寄せられました。



## 来館者数

合計95,161人(96日間)

## 来館者の声

土田さんのオリジナルプリントをこの時代に見ることができて良かったです。

日本の原風景が写し取られており、心に響きました。

「俗神」の写真集を持っていますが、展示のプリントの素晴らしさに驚きました。

## 深瀬昌久写真展「洋子／遊戯」

2025年7月1日(火)～9月30日(火)  
写真歴史博物館


深瀬昌久  
洋子／遊戯

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展  
2025年7月1日(火)～9月30日(火)  
10:00～19:00 (最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで) 会期中無休・入館無料  
主催：富士フイルム株式会社 協力：深瀬昌久アーカイブス 企画：コンタクト 後援：港区教育委員会

FUJIFILM SQUARE

「自分のテーマはいつも身近、手で触れられるものから始まる」と語り、家族、愛猫、自分自身など常に緊密な関係性の中で写真を撮り続けた写真家、深瀬昌久(1934～2012)。新しい表現を生み出す写真家たちが多く出現した1960～70年代の日本において、深瀬は徹底的に「私性」を追求し、「私写真」の先駆者として現代写真史に比類ない足跡を残しました。没後の2014年に深瀬の作品を管理する「深瀬昌久アーカイブス」が設立されて以降、国内外での展覧会の開催や写真集の発刊によって世界的に評価が高まり続けており、その作品は当社「フジフィルム・フォトコレクション」にも収蔵されています。

本展タイトルにある「洋子」は、深瀬が10年余りにわたってその姿を撮り続けた妻の名前。今回展示したのは、二人が出会った1963年に東京・芝浦のと場を舞台として、深瀬お手製の黒マントをまとった洋子を撮影した33点のヴィンテージプリント。深瀬の原点ともいえるシリーズの貴重な初期作品を、没後初めて公開する機会となりました。会期中には、本展に協力いただいた深瀬昌久アーカイブス共同創設者兼ディレクターのトモ・コスガ氏によるギャラリートークを2回開催。多くの来館者が集まり、作品の背景や深瀬の魅力、制作当時の時代背景などに熱心に耳を傾けていました。開催に先立つ2025年春には、深瀬の半生を描いた映画『レイブズ』が公開されるとともに、絶版となっていた写真集『洋子』『遊戯』が赤々舎より復刊。写真家・深瀬昌久とその作品に改めて注目が集まる中での写真展として、多くの方が深瀬の目が捉えた洋子のさまざまな表情に見入っていました。



## 展示作品点数

33点

## クレジット

主催：富士フイルム株式会社 企画：株式会社コンタクト  
協力：深瀬昌久アーカイブス デザイン：遠藤一成  
後援：港区教育委員会

## 併催イベント

- ・ギャラリートーク(お話：トモ・コスガ氏(深瀬昌久アーカイブス)、聞き手：佐藤正子氏(本展企画、コンタクト))
- 2025年7月5日(土)・6日(日) 13:00～ ※各回約30分

## 販売物

- ・写真集『洋子』(朝日ソノラマ)
- ・写真集『遊戯』(赤々舎)
- ・写真集『Masahisa Fukase 1961-1991 Retrospective』(赤々舎)
- ・写真集『鴉』(twelvebooks)
- ・写真集『サスケ』(赤々舎)
- ・『フジフィルム・フォトコレクション』図録
- ・『フジフィルム・フォトコレクション』図録(コンパクト版)

## 主要メディア掲載

新聞：朝日新聞夕刊(東京、7月22日)／写真・カメラ紙(誌)：コマーシャル・フォト(6月13日)、隔月刊『風景写真』(6月19日、8月20日)、CAPA(6月19日、9月20日)、フォトコン(6月19日、7月18日、8月20日、9月20日)／その他雑誌：月刊ギャラリー(7月1日、8月1日、9月1日)、月刊『プレーン』(8月1日)／Web：PRESIDENT Online

## Web公開動画

作品解説動画



動画視聴はこちら

## 来館者数

合計111,146人(92日間)

## 来館者の声

深瀬さんの半生を描いた映画を見て、ずっと気になっていました。貴重なヴィンテージプリント作品を見ることができて良かったです。

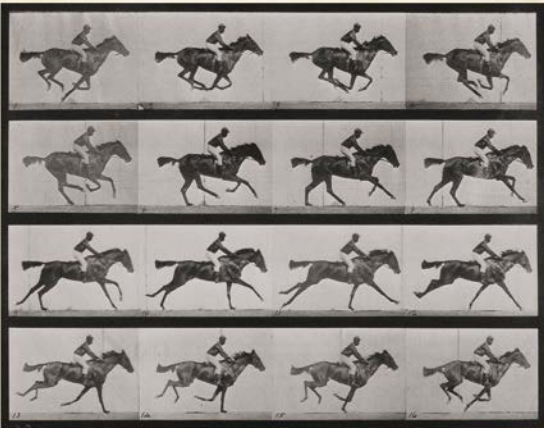
ギャラリートークが面白く、またこのようなイベントがあったら来たいです。

展示を通して、作品や深瀬さんの生い立ちなどの環境を知ること、彼の心象風景や、何を考えて撮影しているのかをおぼろげながら感じることができ、うれしかったです。

# 動画の原点『アニマル・ロコモーション』 「連続写真に取り憑かれた男 エドワード・マイブリッジ」

2025年10月1日(水)–12月26日(金)  
写真歴史博物館

## Eadweard Muybridge



《ギョロップ：サラブレッドの鹿毛（牡）の走馬、アニメーション》1884-1885年撮影（『アニマル・ロコモーション』より）  
所蔵：富士フイルム株式会社

2025年  
**10月1日(水)–12月26日(金)**  
10時–19時（最終日は16時まで、入館は終了10分前まで）  
会期中無休・入館無料

主催：富士フイルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
監修：高橋則英（日本大学上席研究員、日本写真芸術学会会長）、  
鳥海早喜（日本大学芸術学部准教授）  
企画：フォトクラシック  
デザイン：脇野直人

**FUJIFILM SQUARE**

フジフイルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展

## エドワード・マイブリッジ

動画の原点『アニマル・ロコモーション』  
連続写真に取り憑かれた男

今から約150年前に、走る馬の連続写真の撮影を世界で初めて成功させた英国出身の写真家エドワード・マイブリッジ(1830–1904)。映画や動画、アニメーションの先駆者として、視覚芸術の歴史において最も偉大な写真家の一人とされています。その代表作で、1887年に刊行された写真集『アニマル・ロコモーション(動物の運動)』(原題: Animal Locomotion)』には、馬の歩き方やさまざまな動物の動き、人間の運動や日常的な動作まで、多彩な連続写真が収められ、現在も動画の原点として世界中のアニメーターやイラストレーターの教科書となっています。

本展では、富士フイルムが所蔵する『アニマル・ロコモーション』の連続写真107組から、フォトグラヴィア\*で制作された21組の作品を厳選して展示しました。また、同じく当社所蔵の写真に関する貴重書群の中から、マイブリッジ撮影の写真が掲載された『ザ・ホース・イン・モーション(動く馬)』(原題: The Horse in Motion)』(1882年)をはじめとする希少本7冊も併せて展示。さらに、マイブリッジの連続写真をつなげて動画にした映像も上映しました。

本展は、最近のアニメ作品でオマージュ表現が見られるなど、現代まで影響を与え続けている作品を鑑賞できる機会としてSNSでも話題となり、国内外の写真愛好家に加え、映像関係者や映像を学ぶ学生など、さまざまな方が訪れました。当時の技術で瞬間写真の撮影を成功させた功績の大きさや、連続写真の撮影法などについて、コンシェルジュの説明に耳を傾ける来館者の姿が見られ、写真と映像の歴史を生き生きと伝える写真歴史博物館らしい写真展となりました。

※1870年代に実用化された写真印刷技法の一種。画像の階調に独特の深みと奥行きを得られることが特徴で、高品質なフォトグラヴィアはオリジナルの写真に準ずるものとして扱われている。



## 展示作品点数

21組  
関連書籍7冊

## クレジット

主催：富士フイルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
監修：高橋則英（日本大学上席研究員、日本写真芸術学会会長）、  
鳥海早喜（日本大学芸術学部准教授）  
企画：株式会社フォトクラシック  
デザイン：脇野直人

## 主要メディア掲載

新聞：東京新聞(10月29日)／写真・カメラ紙(誌)：CAPA(9月20日)、隔月刊『風景写真』(10月20日)、フォトコン(10月20日、12月19日)／Web：朝日新聞デジタルマガジン&[and]、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、毎日新聞デジタル

## 来館者数

合計102,555人(87日間)

## 来館者の声

写真とアニメーションの歴史をひもとく興味深い内容でした。実際にいくつかの展示に触って体験できたのが良かったです。

アートとしても、科学としても、興味深い展示でした。

貴重な資料を見せていただけて感激しました。

## 鬼海弘雄写真展「PERSONA—坂東玉三郎」

2026年1月5日(月)～3月31日(火)  
写真歴史博物館

鬼海弘雄(1945-2020)は、1973年から東京・浅草、浅草寺で人々の肖像を捉え続けた膨大なシリーズ「PERSONA」で知られています。また、富士フィルムが創立80周年を記念して日本写真史を飾る写真家101人の作品を収集した「フジフィルム・フォトコレクション」の収蔵作家でもあります。

今回の展示作品はプロの写真家として世に名をはせる以前、当時31歳の鬼海が1976年5月から11月、当時26歳の五代目坂東玉三郎に同行して各地の公演での姿を収めたもの。自宅暗室で鬼海が制作したプリントは、その後長く封印され、鬼海が病床でそれらのプリントと再び向き合ってからサインを施したのは、撮影から実に40年を経てのことでした。本展では、その貴重な手焼きのヴィンテージプリント18点と、残されたネガフィルムから厳選されたモダンプリント7点の計25点を初展示。今も名演が語り継がれるマクベス夫人や三島由紀夫の『近代能楽集』での若き姿など、舞台人としてさらなる地平を切り開くさなかにあった玉三郎の姿を堪能いただきました。さらに、鬼海が2004年に土門拳賞を受賞した『PERSONA』ほか主要な写真集や、暗室でのプリント制作に使用していた引き伸ばし機、恩師である哲学者・福田定良から贈られた愛用のハッセルブラッドも展示。鬼海が「PERSONA」に至るビジョンを探る試みとしました。

展示作品の全てが鬼海の未発表作品であることに加え、熱心なファンが多い玉三郎の若き日の姿が見られるとあって、来館者アンケートに加え、SNSにおいてもこの貴重な機会を高く評価するコメントが来館者より多数発信されました。また、会期中には鬼海の娘である鬼海たか子氏によるギャラリートークを開催し、父・鬼海弘雄の思い出を語る言葉に多くの来館者が聞き入っていました。



## 展示作品点数

25点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社 企画：鬼海弘雄写真事務所、  
企画協力：坂東玉三郎 デンポラリー・コンテンポラリー  
後援：港区教育委員会 デザイン：横山曜(ナウプリントング)  
プリント制作：一部、写真弘社

## 併催イベント

・鬼海たか子氏によるギャラリートーク  
2026年1月18日(日) 14:00～ ※約30分

## 販売物

『Asakura Portraits』(ICS)

## 主要メディア掲載

新聞：毎日新聞、朝日新聞夕刊、東京新聞、上毛新聞、北海道新聞、山形新聞、宮崎日日新聞、秋田魁新報、愛媛新聞、スポーツニッポン、東奥日報、山梨日日新聞、河北新報、山陰中央新報、福井新聞、福島民友、中国新聞、神戸新聞、長崎新聞／写真・カメラ紙(誌)：CAPA、フォトコン、隔月刊「風景写真」／その他雑誌：月刊ギャラリー、コマーシャル・フォト、月刊「ブレン」、月刊ギャラリー、週刊文春／Web：毎日新聞デジタル、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online

## 来館者数

合計88,855人(86日間)

## 来館者の声

鬼海氏が約50年前に撮影した貴重なヴィンテージプリントを鑑賞でき、大変うれしかったです。

鬼海さんの写真を通して、過去の歌舞伎や演劇の作品に触れられ、貴重な時間となりました。

坂東玉三郎さんの色気が写真から伝わってきました。写真として残すことのありがたさを感じました。

写真展開催リスト

|                                                                                                                    |                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ■富士フィルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー／開催写真展 計82本(当社が主催・協力する企画展38本、公募展44本)                                                       |                          |
| 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】<br>大谷圭写真展「Breathing Tibet」ー 息づく人々、息づく大地 ー                                  | 2025年3月28日(金)～4月17日(木)   |
| 第22回 港区観光フォトコンテスト2024                                                                                              | 2025年3月28日(金)～4月24日(木)   |
| Club Y/m写真展「IMAGINE・・・」                                                                                            | 2025年4月11日(金)～4月17日(木)   |
| 富士フィルム 企画写真展 「第63回 富士フィルムフォトコンテスト」入賞作品発表展                                                                          | 2025年4月18日(金)～5月1日(木)    |
| 富士フィルム 企画写真展 富士フィルム海老名Minerva AFC 写真展                                                                              | 2025年4月18日(金)～4月24日(木)   |
| 富士フィルム 企画写真展 ～ Piccola felicità(ピッコラ フェリチタ) 小さな幸せ ～<br>企画:水谷 豊 × 撮影:会田 正裕 FUJIFILM GFX100 II コラボレーション              | 2025年4月25日(金)～5月15日(木)   |
| 日本風景写真協会関東5支部創立20周年記念写真展「四季の旋律」                                                                                    | 2025年5月2日(金)～5月8日(木)     |
| 林 明輝 写真展「さりげない自然風景」～GFXの世界～                                                                                        | 2025年5月9日(金)～5月15日(木)    |
| Group18%GRAY 第3回東京写真展「ひかりと遊ぶ」                                                                                      | 2025年5月9日(金)～5月15日(木)    |
| 一般社団法人 日本自然科学写真協会第46回SSP展「自然を楽しむ科学の眼2025-2026」                                                                     | 2025年5月16日(金)～5月22日(木)   |
| 富士フィルム 企画写真展 故 萩原史郎トリビュート「淡きひかりのありか」                                                                               | 2025年5月16日(金)～6月12日(木)   |
| 第18回 山中湖フォトグランプリ写真展                                                                                                | 2025年5月16日(金)～6月12日(木)   |
| 富士フィルムビジネスイノベーション 企画写真展 時静-JISE- 花人 赤井勝のせかい<br>Bloom Infinity- The Artistry of Masaru Akai by MeSEUM               | 2025年5月23日(金)～5月29日(木)   |
| 東京写真月間2025 日本写真協会賞受賞作品展                                                                                            | 2025年5月30日(金)～6月5日(木)    |
| 高橋春生写真展「京浜・眠らない街」                                                                                                  | 2025年5月30日(金)～6月5日(木)    |
| 日本建築写真家協会写真展「光と空間 建築の美」Part16                                                                                      | 2025年6月6日(金)～6月12日(木)    |
| 佐藤秀信写真展「或る志賀」                                                                                                      | 2025年6月6日(金)～6月12日(木)    |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 榎並悦子写真展「越中八尾 おわら風の盆」                                                                         | 2025年6月13日(金)～7月3日(木)    |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 幕末明治を写した記録写真 Photographs of the Late Edo / Early Meiji Period<br>～フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 収蔵品より～ | 2025年6月13日(金)～7月17日(木)   |
| 東京写真倶楽部展                                                                                                           | 2025年7月4日(金)～7月10日(木)    |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 富士フィルムの歴史を築いたフィルム&カメラ                                                                        | 2025年7月4日(金)～7月17日(木)    |
| 第12回 エボニークラブ展「旬美」                                                                                                  | 2025年7月11日(金)～7月17日(木)   |
| こだわり花クラブ第15回写真展 ～千変万華～                                                                                             | 2025年7月11日(金)～7月17日(木)   |
| 富士フィルム 企画写真展 “PHOTO IS”想いをつなぐ。あなたが主役の写真展2025                                                                       | 2025年7月18日(金)～7月23日(水)   |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 希望(HOPE) ～みんなで考える動物の未来～                                                                      | 2025年7月25日(金)～8月14日(木)   |
| 鈴木一雄写真展「ーにつぼん列島ー いのちの聲」                                                                                            | 2025年8月15日(金)～8月21日(木)   |
| 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】 カジリョウスケ報道写真展「憧憬」                                                           | 2025年8月15日(金)～9月4日(木)    |
| 第9回アフリカ開発会議(TICAD9)開催記念写真展「Together for Africa: Ending TB, Bringing More Smiles」                                   | 2025年8月15日(金)～8月28日(木)   |
| ゾーンシステム研究会 30周年記念ポートフォリオ展 ー アダムスのパトン ー                                                                             | 2025年8月22日(金)～8月28日(木)   |
| 竹川隆写真展「大和の色どり」                                                                                                     | 2025年8月22日(金)～8月28日(木)   |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 石川直樹写真展「ASCENT OF 14 2001-2024」～8,000メートル峰 14座への旅～                                           | 2025年8月29日(金)～9月18日(木)   |
| 富士フィルム 企画写真展 日本社会人アメリカンフットボール Xリーグ「X1 Super 2025 秋季リーグ戦 開幕記念写真展」                                                   | 2025年9月5日(金)～9月18日(木)    |
| 2025 全日本読売写真クラブ展                                                                                                   | 2025年9月19日(金)～9月25日(木)   |
| 第17回 六本木フォトコンテスト写真展                                                                                                | 2025年9月19日(金)～10月16日(木)  |
| 富士フィルム 企画写真展 「富士フィルムフォトコンテスト」歴代(第60回～第63回)グランプリ作品展<br>～フジコン大賞・自由写真部門グランプリ・ネイチャーフォト部門グランプリ～                         | 2025年9月19日(金)～10月2日(木)   |
| 写団・渡良瀬写真展「渡良瀬四季彩」                                                                                                  | 2025年9月26日(金)～10月2日(木)   |
| 北川カ三写真展「記憶のかげら ～花おもひ～」                                                                                             | 2025年9月26日(金)～10月2日(木)   |
| 全日写真連フォトフェスティバル2025「カラーとモノクロ 表現の競演」第57回カラーフェア 第24回全日本モノクロ写真展                                                       | 2025年10月3日(金)～10月9日(木)   |
| 富士フィルム 企画写真展 「富士フィルムフォトコンテスト」歴代(第60回～第63回)グランプリ作品展<br>～組写真部門大賞・アンダー39部門大賞および第63回審査員特別賞受賞作品～                        | 2025年10月3日(金)～10月16日(木)  |
| 2025富士フィルム営業写真コンテスト 入賞作品発表展                                                                                        | 2025年10月10日(金)～10月16日(木) |
| 下瀬信雄写真展「寝我写庵(ネガシャン)～反転画像・inverted image～」                                                                          | 2025年10月10日(金)～10月16日(木) |

|                                                                                     |                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ※緑字は当社が主催・協力する企画展                                                                   |                          |
| 英伸三写真展 中国・江南古鎮の「老街茶館」                                                               | 2025年10月17日(金)～10月23日(木) |
| 日本航空写真家協会写真展「SKY GRAFFITI 2025」                                                     | 2025年10月17日(金)～10月23日(木) |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 19世紀、世界初の写真集 フォックス・タルボット『自然の鉛筆』                               | 2025年10月17日(金)～10月30日(木) |
| 富士フィルム 企画写真展 「写真展プリントの上手な作り方」                                                       | 2025年10月17日(金)～10月30日(木) |
| 写真の良さを伝える会 写真展「生きるよろこび ～まちの写真館の視点から～」                                               | 2025年10月24日(金)～10月30日(木) |
| 第10回競馬写真家グループ展「途 サラブレッド 2025」                                                       | 2025年10月24日(金)～10月30日(木) |
| 富士フィルム 企画写真展 GFX Challenge Grant Program 2024 ～Make Your Next Great Image～          | 2025年10月31日(金)～11月20日(木) |
| 東京デイズニールゾート®・フォトグラフィープロジェクト「イマジニング・ザ・マジック」写真展                                       | 2025年11月21日(金)～12月18日(木) |
| 富士フィルム 企画写真展 「大切な写真をカタチにする喜び」                                                       | 2025年11月21日(金)～12月11日(木) |
| 富士フィルム 企画写真展 VR PHOTO COMPETITION 2025 入賞作品展                                        | 2025年12月12日(金)～12月26日(金) |
| 第44回 ハッセルブラッドフォトクラブ写真展                                                              | 2025年12月19日(金)～12月26日(金) |
| 2025年 日本雑誌写真記者会写真展                                                                  | 2025年12月19日(金)～12月26日(金) |
| FUJIFILM Xシリーズ作品展&丸の内写真教室作品展                                                        | 2025年12月19日(金)～12月26日(金) |
| 富士フィルム 企画写真展 「第21回美しい風景写真100人展」【風景写真Xtension展】                                      | 2026年1月5日(月)～1月15日(木)    |
| 2025年 第20回「名取洋之助写真賞」受賞作品 写真展                                                        | 2026年1月16日(金)～1月22日(木)   |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 SHOCK EYE写真展「和景讃歌」The Power of Japanese Scenery               | 2026年1月16日(金)～1月29日(木)   |
| 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】<br>高橋海斗写真展「Ever-Flowing Life」知床 ーめぐりゆく時の中でー | 2026年1月16日(金)～2月5日(木)    |
| 富士フィルム 企画写真展 富士フィルム海老名Minerva AFC 写真展                                               | 2026年1月16日(金)～2月5日(木)    |
| 板東寛之写真展「塔を巡る」                                                                       | 2026年1月23日(金)～1月29日(木)   |
| 前田ケイジ写真展「冬ざれへの誘い」                                                                   | 2026年1月30日(金)～2月5日(木)    |
| 石井 護写真展「American Journey」                                                           | 2026年1月30日(金)～2月5日(木)    |
| 写真集団ポップコーン写真展「東京余白」                                                                 | 2026年2月6日(金)～2月12日(木)    |
| 竹田義之写真展「海を鎮める」                                                                      | 2026年2月6日(金)～2月12日(木)    |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 大橋和典写真展「那覇市・農連市場(のうれんいちば)の記憶」<br>ー 消えゆく市場と暮らしの息遣いの記録 ー        | 2026年2月6日(金)～2月19日(木)    |
| 「麻布未来写真館」パネル展 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～                                                        | 2026年2月6日(金)～3月5日(木)     |
| 中澤 勝写真展「雪国」                                                                         | 2026年2月13日(金)～2月19日(木)   |
| 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】 松田康司写真展「命めぐる海の物語」                           | 2026年2月13日(金)～2月26日(木)   |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 岡田敦写真展「ユリリ島の馬 ～The Horses of Yururi Island～」                  | 2026年2月20日(金)～3月5日(木)    |
| 富士フィルム 企画写真展 Mikael Cronwall写真展「The Swedish Monument/The Godzilla Series」           | 2026年2月20日(金)～3月5日(木)    |
| 鈴島章嘉写真展「想い出の尾瀬風景」                                                                   | 2026年2月27日(金)～3月5日(木)    |
| 第47回 よみうり写真大賞 入賞作品発表展                                                               | 2026年3月6日(金)～3月12日(木)    |
| 林 祐介写真展「Svalbard78°～」～北極圏犬樺350キロの旅～                                                 | 2026年3月6日(金)～3月12日(木)    |
| FUJIFILM SQUARE 企画写真展 水谷草人写真展 photographer 60 years 「イマージュ・ド・スポール “夢”」              | 2026年3月6日(金)～3月26日(木)    |
| 富士フィルムVETシステムズ 企画写真展 富士フィルムグループ「自慢のうちの子ペットフォトコンテスト2025」入賞作品展                        | 2026年3月6日(金)～3月26日(木)    |
| 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【ポートフォリオレビュー/アワード 2025】                                   | 2026年3月13日(金)～4月2日(木)    |
| Japan Photo Meister Club (JPMC) 写真展「Neo Japanesque (ネオ・ジャパネスク)」                     | 2026年3月27日(金)～4月2日(木)    |
| 第23回 港区観光フォトコンテスト2025                                                               | 2026年3月27日(金)～4月23日(木)   |

■写真歴史博物館／開催写真展 計4本

|                                                                              |                         |
|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 土田ヒロミ写真展「俗神」                                   | 2025年3月27日(木)～6月30日(月)  |
| FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 深瀬昌久写真展「洋子／遊戯」                                 | 2025年7月1日(火)～9月30日(火)   |
| FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 動画の原点「アニマル・ロコモーション」【連続写真に取り憑かれた男 エドワード・マイブリッジ】 | 2025年10月1日(水)～12月26日(金) |
| FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 鬼海弘雄写真展「PERSONAー坂東玉三郎」                         | 2026年1月5日(月)～3月31日(火)   |

■来館実績

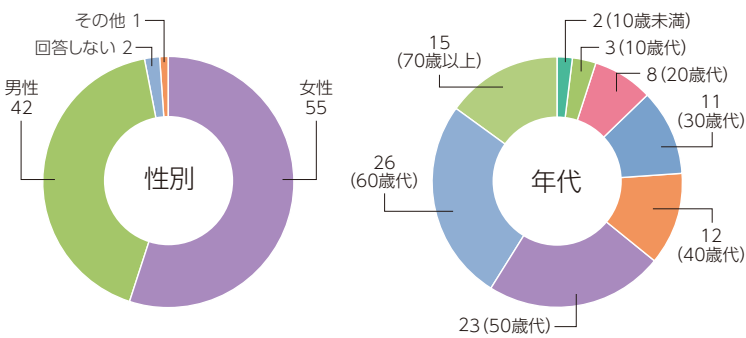
来館者数

※年末年始を除く稼働日数356日の来館者

386,313人  
1日平均  
1,085人

来館者属性

※自社アンケート調査による。(回答人数8,280人、グラフの単位は%)



写真展の開催本数

82本

▶当社が主催・協力する企画展 38本 ▶公募展 44本

若手写真家応援プロジェクト4本、  
写真歴史博物館の企画写真展4本、  
当社が協力する写真展30本を含む、合計38本を開催。

ギャラリートーク・トークイベントなど、鑑賞サポート活動の参加人数

10,591人 536回

写真展は「撮った人=出展者」の気持ちを「見た人=鑑賞者」に伝える場です。フジフィルム スクエアは、写真展を通じてより多くの「人」と「人」の心をつなぐために、さまざまな鑑賞サポート活動を行っています。2025年度は合計10,591人の方にご参加いただきました。



▶ギャラリートーク

写真展の会期中、写真展会場内で作品解説を行っています。出展者ご自身に解説いただく機会も多く、出展者と鑑賞者の交流の場ともなっています。

|                     | 開催回数 | 参加人数   |
|---------------------|------|--------|
| 富士フィルムフォトサロンでの企画写真展 | 48回  | 2,408人 |
| 公募展                 | 50回  | 1,543人 |
| 写真歴史博物館             | 5回   | 296人   |

▶トークイベント、体験、ポートフォリオレビュー

写真に親しむ機会を幅広くご提供するために、写真展に合わせたイベントを企画開催しています。

|                                | 開催回数    | 参加人数   |
|--------------------------------|---------|--------|
| トークイベント                        | 6回      | 1,639人 |
| 体験                             |         |        |
| 「みんなで考える動物の未来クイズ!」             | 会期中毎日開催 | 2,405人 |
| 「野生動物や自然環境を守るために自分にできること」メッセージ | 会期中毎日開催 | 549人   |
| ポートフォリオレビュー                    | 2回      | 60人    |

▶写真歴史博物館コンシェルジュツアー

富士フィルムで写真製品の研究・開発・技術サポートに長年携わった元社員がコンシェルジュとして、写真の歴史と企画展について分かりやすく解説しています。

| 写真の歴史と企画展についての解説ツアー  | 参加人数   |
|----------------------|--------|
| 2025年4月1日～2026年3月31日 | 1,691人 |

Web公開動画

フジフィルム スクエア Webサイトで公開した動画本数。

21本

▶総再生回数

32,936回

主要交通広告

日比谷線・六本木駅、日比谷線・恵比寿駅、千代田線・乃木坂駅、都営大江戸線・青山一丁目駅、東京ミッドタウン

自社媒体

・フジフィルム スクエア  
Webサイトユーザー数:800,969人  
・Facebook、X (旧Twitter)、Instagram投稿件数:574件

主要メディア掲載

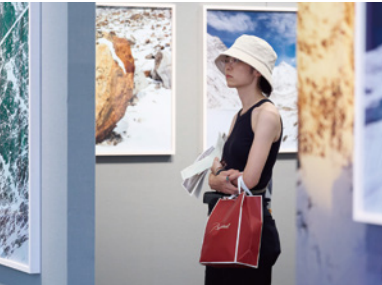
中央紙・地方紙:朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、毎日新聞、東京新聞、毎日小学生新聞、東奥日報、北海道新聞、スポーツニッポン／写真・カメラ紙(誌):フォトコン、CAPA、隔月刊「風景写真」、デジタルカメラマガジン／その他雑誌:週刊文春、月刊「プレーン」／Web:PRESIDENT Online、毎日新聞デジタル、朝日新聞デジタルマガジン&[and]、東洋経済オンライン、JBpress、@DIME、CREA WEB、livedoorニュース、iza、産経ニュース、Pen Online

■来館者、出展者から寄せられた声

フジフィルム スクエアには来館者からアンケートで感動の声が多く寄せられます。また、出展者からも展示を通して発見したことや、来館者との交流についての感想など、たくさん声をいただきます。このように、フジフィルム スクエアで写真を通じて「こころ彩られ」、紡ぎ出された言葉の一部をご紹介します。

※お寄せいただいた声と写真の被写体の方は関係ありません。

《来館者の声》



写真展に来るのは初めてでしたが、写真表現の素晴らしさに静かな衝撃を受けました。また明日から頑張ろうと思いました。

これほどたくさんの企画、写真を鑑賞できるとは思いませんでした。非常に満足度が高かったです。毎回のご準備は大変だろうと感じました。

展示作品の写真家が会場にいらっしゃるので、直接お話しできるのがうれしいです。

無料であるにもかかわらず、美術館のように見応えのある写真ばかりでした。

独自性の高いさまざまな視点で捉えた作品や、素晴らしい景色を収めた作品にハッとさせられることが多く、また見に来たくなります。

写真家ご本人によるギャラリートークも大変面白く、写真家や作品の背景が非常によく理解できました。

こんなに大きなサイズ、美しいプリントで写真を見られる機会はなかなかなく、貴重な場所だと思います。

入り口に入った瞬間から引き込まれました。ずっと見ていられるくらい素敵な写真、そして和紙とのコラボの写真はまた一段と味がありました。

ディテールにこだわった写真が大好きです。どれも圧巻の作品でした!!

作品の背景についてコンシェルジュの方から詳しい説明があり、予想の数倍楽しむことができました。

写真・カメラの歴史や技術について、個別に丁寧に説明いただける、他にはない施設です。

展示作品や写真についていろいろな情報を解説してくれるコンシェルジュにプロフェッショナル性を感じました。

《出展者の声》

個展開催に向けて助言をいただく中で、カメラを変えたり、人としっかりコミュニケーションを取りながら撮影したりなど、それまでの自分の撮影スタイルを変える挑戦となりました。結果、写真自体が変わっていくのを実感しました。今後も写真を撮り続けていきたいです。

自分の意図や想定を超える感想を来館者の方からいただいたことで、自分自身の作品への理解が深まっていったことに、最も驚きを感じました。来館者の皆さんからいただくどんな感想も、本当にうれしかったです。

初めての写真展で、準備することがたくさんあることに驚き、展示初日の時点でやり切ったような気持ちになりましたが、来館者とお話しする中で、作品の次章が自然と見え始めるような感覚になりました。こんなに多様な意見をいただけたのは、写真を趣味にされている方だけではなく、幅広い層の方が来館するフジフィルム スクエアであればこそだと思います。

サポートしてくださった方々、展示をご覧いただいた方々からの声や感想を大切に、今回の作品をさらに成長させていきたいです。また、この経験を糧に、ゆくゆくは他の作品も精力的に発表していければと思っています。

個展開催をサポートしてくださった富士フィルムや関係者の方々に感謝しています。皆さんに出会わなければ、この作品は生まれませんでした。まるで自分の中に新しい生命が誕生したような感覚です。

写真展を作り上げていく中で、思い入れのある写真を展示候補から外さなくてはならない場面など、悩む場面もありましたが、その理由を理解し、乗り越え、形になったときに、何か新しいステージに進めたような喜びがありました。

鑑賞者がどこを見ているのか、何を疑問に感じるのかを、会場でのリアルな声から知ることができ、貴重な経験でした。

関係者の方々から助言をいただき、撮影した写真の世界をより実感できるよう、プリントを実物大に引き伸ばしたり、被写体の実際の高さに展示したりと、体感型展示に挑戦し、プリントの質の高さもあいまって多くの方に喜んでいただくことができました。

展示で作品をご覧いただくことに加え、ギャラリートークで会場の方々の反応を見ながら、作品それぞれの背景を自分の言葉で伝えられる貴重な機会をいただき、感謝しています。

展示期間中、多くの新たな出会いがあり、作品を介して自然と対話が生まれる充実した時間になりました。

約3週間という長い期間の展示は初めてで、非常に多くの方に見てもらえたことを実感しています。今後も引き続き作家活動を続けていきたいと思っています。

《従業員の声》

さまざまなテーマの写真展を開催し、広く奥深い写真の魅力を発信しており、当社ならではの貴重な場所だと思います。

歴史ある貴重な写真・資料を見ることができると素晴らしいです。好きな写真家の方の写真が鑑賞できるのがうれしいのはもちろん、それまで知らなかった素晴らしい写真家の方を知る機会にもなっています。

有料でも良いと感じられるクオリティーの高い写真展を開催しながら、メセナ活動として無料で公開していることを誇らしく感じます。

若手クリエイターの創作活動をサポートする活動に心から賛同しています。機材や資金がなくても創作意欲を持った方々の素晴らしい作品を見ることができるとがうれしいです。

SDGsの観点から世界を捉えた写真展を開催しているのが従業員としてうれしく誇らしいです。

知り合いにも企画展を楽しみに毎回欠かさず通ってくださっている方がいます。運営するのは大変だと思いますが、写真の持つ力を多くの方に感じていただける意義は大きく、従業員として応援しています。



- ・本活動報告書の2025年度とは2025年4月1日～2026年3月31日を指します。
- ・本活動報告書に掲載されている「主要メディア掲載」および「来館者数」のデータは自社調査に基づくものです。
- ・「来館者数」は写真展期間中のフジフィルム スクエア全体の来館者数の合計です。
- ・「来館者の声」および「来館者属性」は、2025年度に開催された写真展期間（2025年4月1日～2026年3月31日）に実施された自社アンケート調査に基づくものです。
- ・本活動報告書では、銀を含む化学薬品をゼラチンに溶かして塗布した写真用紙に、ネガフィルムなどを通して露光し、現像処理して得られる写真プリントのことを「銀写真プリント\*」と表記しています。  
※フィルム・デジタルカメラ画像を写真店やラボに依頼してプリントする、従来からの「写真（銀塩方式）」プリントを示す呼称
- ・本活動報告書に掲載されている写真は、全てご本人の許諾を得た上で撮影しております。
- ・年間を通じた写真展運営の協力会社は、下記のとおりです。  
展示作業：株式会社フレームマン  
展示物・告知物制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社  
運営協力：富士フィルムビジネスエキスパート株式会社



世界中の人々の笑顔を見つめてきた富士フィルムグループは、これからも幅広い事業領域で人々に寄り添い、従業員一人ひとりが「アスピレーション（志）」を持って、このグループパーパスの実現を目指すことで、地球上の笑顔の回数を増やしていきます。



## フジフィルム スクエア 2025年度 活動報告書

発行日：2026年7月

発行・編集：富士フィルム株式会社

コーポレートコミュニケーション部 宣伝部

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

発行者：松島大泉

制作：富士フィルムビジネスエキスパート株式会社

企画・デザイン：株式会社ラジアン

印刷：株式会社ジョーメイ

©富士フィルム株式会社 禁無断転載

